

西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書(20)

県道（西之表～南種子線）改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

芦野遺跡

2007年3月

鹿児島県西之表市教育委員会



石鏃・スクレーパー



水晶製剥片

序 文

本報告書は、県道改築事業（西之表～南種子線）に伴い、西之表市教育委員会が発掘調査を実施した芦野遺跡の記録です。種子島は、古くから自然の恵みを受け豊かな環境のもとにあったことから旧石器時代から歴史時代までの遺跡が多数所在し、貴重な資料が数多く出土しています。

今回発掘調査を行った芦野遺跡は、立山地区芦野に所在します。立山地区は出土品が鹿児島県の文化財に指定された奥ノ仁田遺跡をはじめとする、縄文時代の遺跡が多数確認されている地でもあります。

発掘調査の結果、縄文時代早期の集石・配石・土坑などの多数の遺構が検出され、貝殻文系土器や石鏃などの石器類が出土し、種子島の縄文時代早期文化を探る貴重な資料のひとつとなりました。

本報告書が学術的文献として活用されるのはもとより、市民の文化財保護に対する意識高揚の一助として十分活用されることを念じています。

最後に、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課及び同県立埋蔵文化財センターをはじめ、立山地区的関係者、熊毛支庁土木課、ならびに発掘調査に従事された皆様方に厚くお礼申し上げます。

平成 19 年 3 月

西之表市教育委員会

教育長 有 島 正 之

報告書抄録

ふりがな	あしの いせき							
書名	芦野遺跡							
副書名	県道(西之表～南種子線)改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
卷次								
シリーズ名	西之表市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	20							
編集者名	沖田純一郎							
編集機関	西之表市教育委員会							
所在地	〒891-3193 鹿児島県西之表市西之表7612番地							
発行年月日	2007年3月25日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
芦野遺跡	鹿児島県 西之表市 安城芦野	462136	109	30° 37' 15"	131° 03' 14"	20041006 ～ 20050210	1,400m ²	県道 (西之表～ 南種子線) 改築事業
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
芦野遺跡	散布地 集落	旧石器時代末期 縄文時代早期	集積状遺構1基 配石遺構6基 集石遺構8基 土坑1基	縄文土器 前平式 吉田式 塞ノ神式他 石器 石鏃 スクレーパー 水晶製剝片 磨石・敲石 砥石 台石・石皿				

例　言

1. 本書は県道（西之表～南種子線）改築事業に伴う芦野遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本調査は、鹿児島県土木部 熊毛支庁土木課の委託を受け、西之表市教育委員会が実施した。
3. 本書に用いたレベル数値は、熊毛支庁土木課が作成した地形図に基づく海拔高である。
4. 本書の遺物番号は全て通し番号で、本文及び挿図・図版番号と一致する。
5. 発掘調査における測量・実測は沖田・荒井美佳子・村松真由子・桑原とも子が行った。写真撮影は沖田が行った。
6. 本書の執筆と編集は沖田が行った。
遺物の拓本・実測・トレースは荒井美佳子・内田順子・末溝直美・原 里菜・沖田が行った。なお、石器類のうち石鏃・スクレーパー・水晶製剥片の実測・トレースは（株）九州文化財研究所に委託した。
7. 写真図版の遺物撮影は、菊池スタジオ菊池一文氏、種子島開発総合センター委託職員尾形之善氏と沖田が行なった。
8. 調査中採取した、炭化物の科学分析及び分析結果報告書作成については、パリノ・サー・ヴェイ（株）に委託した。
9. 発掘調査及び整理作業に関して、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・協力を得た。
10. 出土遺物は西之表市教育委員会で保管し、展示・活用する。

目 次

卷頭カラー図版

序文

報告書抄録

例言

第Ⅰ章 調査の経過.....	2	第3節 遺構.....	19
第1節 調査に至る経緯.....	2	第4節 遺物.....	52
第2節 調査の組織.....	2	1 土器.....	52
第3節 調査の経過.....	3	2 石器類.....	68
第Ⅱ章 遺跡の位置と環境.....	8	第Ⅳ章 科学分析.....	79
第1節 遺跡の位置.....	8	第V章 調査のまとめ	82
第2節 歴史的環境.....	8	第1節 遺構.....	82
第Ⅲ章 発掘調査の概要.....	11	第2節 遺物.....	83
第1節 調査の概要.....	11	第3節 総括.....	84
第2節 層位.....	11		

挿図目次

第1図 芦野遺跡の位置.....	1	第16図 配石 (3)	27
第2図 芦野遺跡と周辺位置図.....	9	第17図 配石 (4)	28
第3図 芦野遺跡エリア及び工事対象地.....	12	第18図 集石 (1)	30
第4図 調査対象地.....	13	第19図 集石 (2)	31
第5図 北側区 南・東側土層断面図.....	14	第20図 集石 (3)	32
第6図 南側区 東側土層断面図 (1)	15	第21図 集石 (4)	33
第7図 南側区 東側土層断面図 (2)	16	第22図 遺構内出土遺物 (1)	34
第8図 南側区 西側土層断面図 (1)	17	第23図 集石 (5)・土坑	36
第9図 南側区 西側土層断面図 (2)	18	第24図 遺物集中出土地 1	37
第10図 積集積状遺構配置図	20	第25図 遺物集中出土地 2	38
第11図 積集積状遺構・土層断面図	21	第26図 集中地出土遺物 (1)	39
第12図 集積状遺構内遺物	22	第27図 遺物集中出土地 3	40
第13図 南側区 遺構配置図	23	第28図 集中地出土遺物 (2)	41
第14図 配石 (1)	25	第29図 遺物集中地出土地 4	42
第15図 配石 (2)	26	第30図 集中地出土遺物 (3)	43

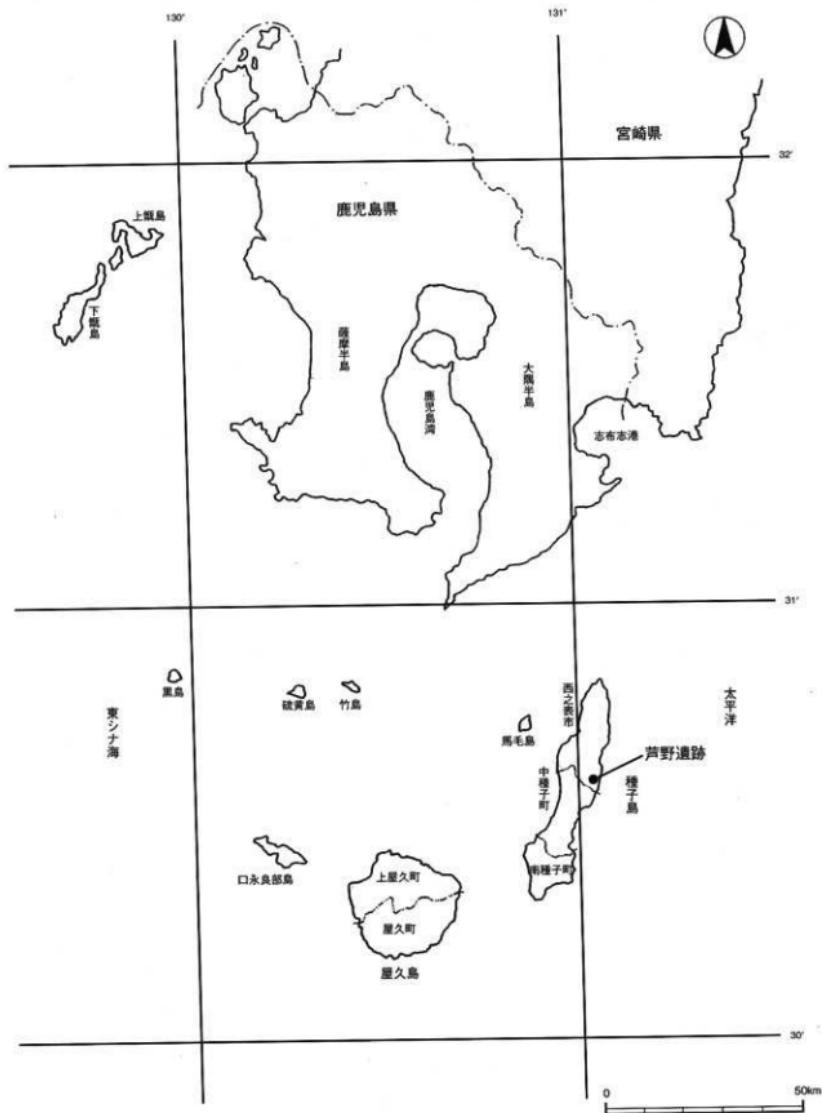
第31図	遺物集中出土地 5・6	45	第42図	出土遺物 (5)	62
第32図	集中地出土遺物 (4)	46	第43図	出土遺物 (6)	63
第33図	集中地出土遺物 (5)	47	第44図	出土遺物 (7)	64
第34図	集中地出土遺物 (6)	50	第45図	石器類出土狀況	70
第35図	全遺物出土狀況	53	第46図	出土遺物 (8)	71
第36図	I類土器出土狀況	55	第47図	出土遺物 (9)	72
第37図	出土遺物 (1)	56	第48図	出土遺物 (10)	73
第38図	出土遺物 (2)	57	第49図	出土遺物 (11)	74
第39図	出土遺物 (3)	58	第50図	出土遺物 (12)	75
第40図	II～V類、VI～IX類土器出土狀況	59	第51図	出土遺物 (13)	76
第41図	出土遺物 (4)	60	第52図	出土遺物 (14)	77

表目次

第1表	芦野遺跡周辺遺跡地名表	10	第6表	土器觀察表 (1)	65
第2表	礫集積状遺構内石器觀察表	22	第7表	土器觀察表 (2)	66
第3表	遺構・集中出土地内土器觀察表(1)	48	第8表	土器觀察表 (3)	67
第4表	遺構・集中出土地内土器觀察表(2)	49	第9表	石器觀察表	78
第5表	遺構・集中出土地内石器觀察表	51			

写真図版

図版1	北側区・南側区調査狀況	86	図版11	出土遺物 (3)	96
図版2	土層断面	87	図版12	出土遺物 (4)	97
図版3	遺構 (1)	88	図版13	出土遺物 (5)	98
図版4	遺構 (2)	89	図版14	出土遺物 (6)	99
図版5	遺構 (3)	90	図版15	出土遺物 (7)	100
図版6	遺物出土狀況 (1)	91	図版16	出土遺物 (8)	101
図版7	遺物出土狀況 (2)	92	図版17	出土遺物 (9)	102
図版8	遺物出土狀況 (3)	93	図版18	出土遺物 (10)	103
図版9	出土遺物 (1)	94	図版19	出土遺物 (11)	104
図版10	出土遺物 (2)	95	図版20	出土遺物 (12)	105



第1図 芦野遺跡の位置

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

鹿児島県土木部道路建設課（熊毛支庁土木課）は、西之表市安城・立山地区内において県道西之表南種子線道路改築事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財（以下県文化財課）に照会した。

これをうけて、県文化財課が平成13年3月に埋蔵文化財分布調査を実施した。その結果、事業区内に芦野遺跡他9箇所の遺跡が所在することが判明した。

芦野遺跡については、分布調査の結果をもとに熊毛支庁土木課・県文化財課・西之表市教育委員会社会教育課で協議を行った結果、埋蔵文化財確認調査（以下確認調査）を実施することとなった。確認調査は西之表市教育委員会が調査主体となり、平成15年11月に行った。確認調査の結果、工事対象地内の北側区、南側区において遺物包含層が確認され、遺構や遺物の出土があった。

確認調査の結果をもとに土木課・県文化財課・市教委で協議を行い、工事の設計上、遺物包含層残存部分の現状保存は不可能であり、工事着工前に遺跡の緊急発掘調査（全面調査）を実施し記録保存を図ることとなった。

芦野遺跡の緊急発掘調査は西之表市教育委員会が調査主体となり平成16年10月6日から平成17年2月10日まで行った。整理・報告書作成作業は平成18年度に行なった。

第2節 調査の組織

（緊急発掘調査）

事業主体者 鹿児島県土木部 熊毛支庁土木課

発掘調査主体者 西之表市教育委員会

発掘調査責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之

発掘調査企画担当 西之表市教育委員会 社会教育課 課長 阿世知猛雄
ク ク ク 課長補佐 奥村 学

発掘調査担当者 西之表市教育委員会 社会教育課 主事 沖田純一郎

発掘調査作業員 德田香・徳田恵子・青山エミ子・山静・脇田シゲ・西中正子・武田美津子

平石カツエ・武田カツ子・村山千代子・小倉みよ子・小倉さおり・川野亮

桑原とも子・村松真由子・荒井美佳子

(整理・報告書作成)

事業主体者 鹿児島県土木部 熊毛支庁土木課

作成主体者 西之表市教育委員会

作成責任者 西之表市教育委員会 教育長 有島 正之

作成企画者 西之表市教育委員会 社会教育課 課長 河野 博康
タクシードラム 課長補佐 奥村 学
タクシードラム 主査 柳田さゆり

作成庶務担当 西之表市教育委員会 社会教育課 主査 濱渡 友子

作成担当 西之表市教育委員会 社会教育課 主査 沖田純一郎

整理作業員 内田順子・末満直美・荒井美佳子・原 里菜

第3節 調査の経過

芦野遺跡の範囲内で、道路工事で削平される部分のみを調査対象とした。確認調査の結果から、北側・南側に遺物包含層が確認されており、南側の調査対象地については表土及びアカホヤ火山灰層まで重機で除去した後、人力で掘り下げながら遺物・遺構の検出を行った。北側の調査対象地は表土及びローム層までを重機で除去したのち、人力で掘り下げながら遺物・遺構の検出を行った。掘り下げ面が非常に硬く作業は困難であった。

以下調査の経過については日誌抄をもってかえる。

10月6日	水	発掘機材運搬。プレハブ・トイレ等設置作業。備品配置・清掃。調査区表土剥ぎ
7日	木	東側、最南端部トレチの様相で掘り下げ。アカホヤ下層より土器小片・磨石出土する。ユンボにより取付道路部分表土剥ぎを行う。バリケード設置。
12日	火	東側、南区側掘り下げ。土器片、礫が出土する。文様不明。縄文早期。いずれアカホヤ下層ページュ色ローム層から約 20 cm の深さより出土する。
13日	水	南側より礫が出土する。取付道路部分表土剥ぎ。確認調査出土分より集石検出（2基） 清掃。一部掘り下げを行う。東側南区掘り下げ。磨製石獣1点、土器小片、礫が出土する。東側と西側の表土剥ぎ。
10日	木	取付道路部分掘り下げ。姫島産黒曜石1点、礫、剥片類が数点出土する。礫の出土が多い。一部焼礫もある。礫は砂岩。東側掘り下げ。礫、磨石、たたき石、土器小片出土する。阿世知社会教育課長、奥村課長補佐、熊毛支庁土木課岡元氏来跡。

15日	金	取付道路部分掘り下げ。アカホヤ下層ベージュ色ローム土より土器集中して出土する。他にも磨石、砂岩礫が多く出土する。東側掘り下げ。遺物出土なし。最下層は黒褐色土。
18日	月	取付道路部分掘り下げ。アカホヤ下層より土器片、礫出土する。台風接近のため看板、バリケードを撤去する。
19日	火	台風のため作業中止する。20日も台風のため作業中止。
21日	木	東側、トレーナー清掃及び取付道路部分清掃。西側部分壁面清掃、掘り下げ、土器片、礫が出土する。遺物出土状況、作業状況、写真撮影、1・2号集石平面実測。
22日	金	取付道路部分掘り下げ。土器片、剥片、礫が出土する。西側面掘り下げ。土器小片、礫は焼礫が多い。壁面側より水晶剥片3点出土する。遺物出土・礫出土状況の平面実測。作業風景写真撮影。
23日	土	重機により現道面表土剥ぎ、排土処理作業。
25日	月	東側面、平板・レベル取り上げ。ベルトコンベア・発電機などの設置。西側面掘り下げ。北よりから集石検出。水晶剥片1点、焼礫が出土する。多量に礫・土器出土する。取付道路部分遺物取り上げ。1・2号集石・礫、遺物集中出土地断面実測、配図作成終了。重機により現道面表土剥ぎ、排土処理作業。
26日	火	雨天のため作業中止。遺物及び図面整理。
27日	水	西側掘り下げ。1号配石検出。土器片底部出土する。西側壁面周辺清掃、1号配石写真撮影。西側面より、吉田式土器片多数出土する。
28日	木	西側掘り下げ。遺構遺物水洗い後写真撮影。1号配石、遺物出土地にブルーシートをかける。西側北より遺物出土量少なし。
11月1日	月	西側部分掘り下げ。平板・レベル・遺物取り上げ。南側掘り下げ拡張する。有島教育長、阿世知社会教育課長、奥村課長補佐米跡。
2日	火	2号配石平面・断面実測。西側平板・レベル・遺物取り上げ。南側掘り下げ。水晶剥片出土する。
4日	木	2号配石断面、平面実測。下部掘り込み。土坑内清掃・写真撮影。一般見学者2名来跡。
5日	金	3号配石断面平面実測。図面整理。
8日	月	南側掘り下げ。石礫1点出土する。南側地区からの遺物の出土は少なくなる。
9日	火	東側土層断面図作成。南側面掘り下げ。遺物出土少なし。東側ベルトコンベア付近掘り下げ。土器片1点出土する。西側ベルトコンベア付近一部掘り下げ。土器片・礫が出土する。全体的に東側は遺物の出土量少なし。西側、南側壁面清掃を実施。
10日	水	西側土層断面作成。南側地区掘り下げ。
11日	木	西側掘り下げ。礫がまとまって出土する。東側掘り下げ遺物出土少なし。立山小学校発掘体験学習生徒4名、教員3名来跡。
12日	金	南側遺物取り上げ。南側ベルトコンベア付近掘り下げ。西側掘り下げ。礫、土器片が出土する。東側黒褐色土層より、土器片1点出土する。西側より、礫集中出土地点、掘り下げ。ブルーシートをかける。

15日	月	東側掘り下げ。礫出土するが、点数少なし。西側掘り下げ。土器小片出土多し、一括取上げて処理。土坑周辺を掘り下げる。礫等出土する。ベルトコンベア北側へ7m程度移設する。重機により排土処理。
16日	火	ベルトコンベア東側をアカホヤ下層まで掘り下げる。南より、西側壁面掘り下げ。西側面掘り下げ。土器片出土少なし、礫の出土は多い。北側、西側面掘り下げる。アカホヤ下層より土器片出土する。有島教育長、河野総務課長、教育委員4名、教育委員会総務課木原氏、高石氏来跡。
17日	木	西側掘り下げ。土器片多量出土する。北側、土器片底部を中心に多量に出土する。
19日	金	平板・レベル・遺物取り上げ。東側掘り下げ。アカホヤ火山灰下層より遺物数点出土する。遺構写真撮影、実測準備、平板により配置ポイントをおとす。北側掘り下げ。石錐1点、礫、土器片出土する。北側、アカホヤ層一部搅乱層がある。
22日	月	遺構3基平面、断面実測。遺物取り上げ。重機により排土処理、通行道路砂利敷き。
24日	水	遺構平面、断面実測、写真撮影。遺物取り上げ。平板・レベル、測量。図面整理、レベル記入。
25日	木	南側ベルトコンベア周辺掘り下げ。水晶2点出土する。他、土器片・礫・出土する。遺物の出土量少なし。作業風景写真撮影。
26日	金	排土処理、掘り下げ。下西小学校29名、奥村社会教育課長補佐、教育委員会総務課高石氏、市文化財保護審議委員鷲島氏来跡。
29日	月	1号土坑検出、掘り下げ。東側ベルトコンベアより掘り下げ。重機により北側表土剥ぎ及び排土処理。社会教育課村井氏、久保氏来跡。
30日	火	遺構実測。平板・レベル、遺物取り上げ。写真撮影。ベルトコンベア側掘り下げ。1号土坑平面・断面実測。
12月1日	水	遺構内遺物取り上げ。南側掘り下げ。奥村社会教育課長補佐、種子島開発総合センター尾形氏来跡。
2日	木	最北側、最南部重機により表土剥ぎ。写真撮影。
3日	金	遺構内掘り下げ、清掃。
6日	月	南側掘り下げ。集石検出作業。土器片、焼碟多数出土している。集石内清掃。社会教育課大山氏、久保氏来跡。
7日	火	最南部、集石内、清掃、掘り下げ。土器片1点出土。南側部分掘り下げ。黒褐色土層まで掘り下げる。阿世知社会教育課長来跡。
8日	水	最南部、南側・北側・西側・東側掘り下げ。土層の変化が見られる。(黄色部分、黒褐色部分、茶褐色部分)南側サツマ火山灰検出。北側ブルーシート側より礫数点検出する。東側掘り下げ。西側黒褐色土層下位まで掘り下げる。
9日	木	最南部、北側、南側掘り下げ。黒茶褐色土まで掘り下げる。
10日	金	最南部、南側黄褐色土まで掘り下げる。最南部、北側掘り下げ。ページュ色ローム層より土器片、数点出土する。同一個体と思われる。全体的に出土遺物少なし。

13日	月	石鎚出土する。西側土層断面写真撮影。西側土層断面・平面実測作業。北側掘り下げ。土器出土する。出土土器水洗い作業。平板・レベル取り上げ。
14日	火	最南部、南側・東側土層断面遺物出土状況を写真撮影。平面断面実測。遺物取り上げ。最北部、重機により表土剥ぎ。礫検出する。
15日	水	最南部、土層断面西側実測。平板・レベルにより遺物取り上げ。遺構平面実測。平板にてボイントおさえる。最南部、残存部地を重機により表土剥ぎ掘り下げ。その後人力にて掘り下げ。北より側掘り下げ。最北部、壁面清掃。北・東・南側を人力にて掘り下げ。
16日	木	最南部、遺構断面実測終了。遺物出土状況、写真撮影。土器集中出土地検出作業、掘り下げ。土器、磨石等出土する。石鎚（打製2点そのうちの1点は黒曜石製）出土する。有島教育長、阿世知社会教育課長、河野教育委員会総務課長、南種子町教育委員会石堂氏、鹿児島大学森脇教授来跡。
17日	金	土器出土状況平面断面実測。遺物取り上げ。清掃、写真撮影。最南部掘り下げ。南側、壁面清掃。ブルーシートをはる。黒曜石、剥片、スクレーパー出土。壁面に集石検出。
20日	月	土器出土状況平面・断面実測終了。遺物取り上げ。清掃作業。最北部、礫集中出土地アカホヤ下層まで掘り下げる。南種子教育委員会徳田氏来跡。
21日	火	遺構内清掃、写真撮影、平面実測作業。奥村社会教育課長補佐来跡。
22日	水	遺構平面実測。図面整理、遺物台帳、整理作業。一般見学者6名来跡。
1月11日	火	南側掘り下げ。遺物出土。遺構断面実測終了後、周辺掘り下げ。礫出土する。礫取り上げた後掘り下げ。やや下位より土器片出土する。南側、平板レベル、遺物取り上げ。
12日	水	南側掘り下げ。平板レベル、遺物取り上げ。遺構面、礫除去後掘り下げ。最南部壁面掘り下げ。南側床面、土層の色が違う地点にミニトレンドルフを入れて下層確認作業をする。北側、礫が多い量に出上。周辺清掃及び壁面・床面清掃。北側で遺構検出する。検出作業、平板測量及び堀り際位置測量。遺構内礫は赤化しているものは無く全て砂岩である。周辺に炭化物もいためかの可能性は無い。集められた礫は7個であり大きさは拳大ぐらいである。
13日	木	北側壁面アカホヤ直下まで掘り下げ。遺構断面実測終了。南側、ミニトレンドルフ掘り下げ。北側掘り下げ。壁面周辺清掃作業。
14日	金	南側掘り下げ。土器、礫等の水洗い作業を行う。
17日	月	北側土層断面精査。出土遺物洗浄作業。
18日	火	南側調査終了。北側、A T層露出部分、壁面確認のため掘り下げる。西側礫集中出土地点にトレンドルフ設置後掘り下げ。礫1点出土する。
19日	水	北側掘り下げ。文化財保護審議委員大石氏、河内氏、種子島氏、鮫島氏、奥村社会教育課長補佐来跡。
20日	木	遺物洗浄、図面整理作業。
24日	月	ブルーシートを洗浄した後干す。北側礫集中地点断面精査後掘り下げ。
25日	火	備品清掃、後片付け。北側遺構土層断面図作成。南側土層断面図作成。

26日	水	北側土層断面図作成。掘り下げ。
27日	木	北側土層断面図作成。掘り下げ。
28日	金	南側土層断面図作成。掘り下げ。
31日	月	南側土層断面図作成。遺構平面実測、断面実測。遺構内遺物取上げ作業。
2月1日	火	南側土層断面図作成。遺構平面実測、断面実測。遺構内遺物取上げ作業。
2日	水	遺構平面実測、断面実測。遺構内遺物取上げ作業。
3日	木	遺構平面実測、断面実測。遺構内遺物取上げ作業。
4日	金	遺物平面実測、断面実測。遺構内遺物取上げ作業。
7日	月	遺物平面実測、断面実測。遺構内遺物取上げ作業。
8日	火	遺構内遺物取上げ作業、遺構掘り下げ作業。
9日	水	遺構平面実測、断面実測。遺構掘り下げ作業。
10日	木	遺構平面実測、断面実測。調査終了。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

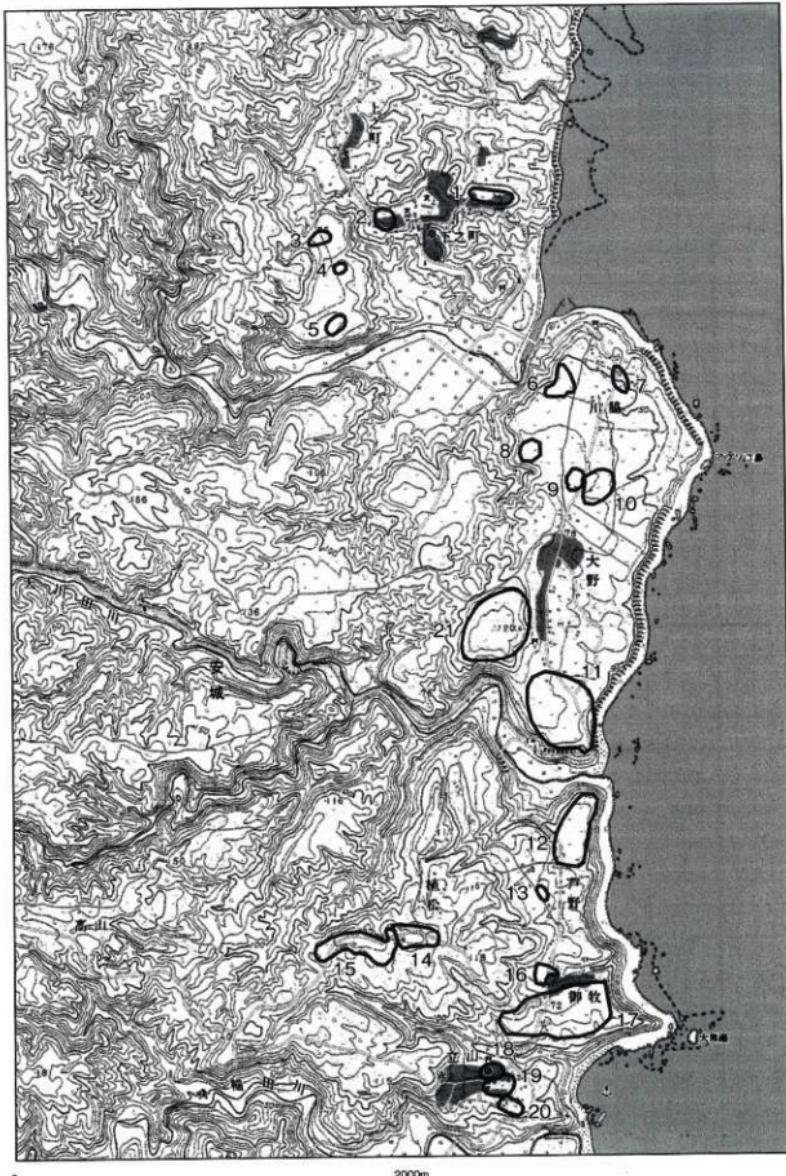
種子島は鹿児島県の離島では瓶島とななり、鹿児島本土に最も近い島で、本土最南端の佐多岬から大隅海峡を隔てた、東南約40kmの海上に位置し、南北52km、東西12kmの北北東から南南西に細長く伸びた島で、面積は琵琶湖とほぼ同じくらいの約447km²である。最高標高は282.3mしかない低平な細長い島で、地形は丘陵性の山地、海岸段丘、河川付近の沖積低地からなり、西方に約20km離れた九州最高峰の宮之浦岳（標高1935m）を有する屋久島とは対照的である。また、西海岸部には比較的砂丘が発達しているが、東海岸は沈降によるリアス式状の海岸を呈しており、犬城海岸（中種子町）には、馬立の岩屋・浜田海岸（南種子町）には千座の岩屋と呼ばれる巨大な海食洞がある。種子島は時代とともに熊毛層群、茎永層群、上中層群と大きく三つの層群から成り立ち、その上に火山灰起源のローム層が数枚にわたり堆積しており、海底に沈んだり、陸化を繰り返しながら現在の姿になったのは、約10,000年前位だと推定されている。行政区は北から西之表市・中種子町・南種子町と1市2町からなる。

芦野遺跡は西之表市の東南海岸部立山地区芦野の標高約61mの海岸段丘の先端部に位置し、遺跡の東側には太平洋を望むことができる。遺跡の北側には大川田川が流れ、海・川に非常に近い位置に立地している。大川田川を挟んで北側には縄文時代早期の東前平遺跡が所在し、芦野遺跡と東前平遺跡は、現在種子島で最も長いカシミア橋（全長約200m）で結ばれ、そこから見る太平洋の眺望は美しく、新たな観光スポットとなっている。

第2節 歴史的環境

芦野遺跡が所在する西之表市の東南海岸部、立山・安城地区は近年開発事業のため発掘調査が毎年実施され、良好な資料が出土している。特に奥ノ仁田遺跡・鬼ヶ野遺跡は縄文時代草創期（約12,000年前）の遺跡であり多量の遺物及び遺構が検出され話題となった。芦野遺跡の周辺では、縄文時代早期前葉から終末期までの遺跡が相次いで発見、発掘調査が行われ、良好な資料が出土している。種子島の縄文時代草創期・早期文化を考える上で、重要な場所である。

種子島は旧石器時代から歴史時代まで数多くの遺跡があり、最近の調査では、旧石器時代・縄文時代草創期の調査で全国的に注目を浴びるようになった。旧石器時代の遺跡では種子島で初めて約3万年前の縄群が検出された横峯遺跡（南種子町）や縄群・石器類・土坑が検出された立切遺跡（中種子町）などがあり、また平成18年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターが調査を行った大津保畠遺跡（中種子町）では約3万年前の落し穴が12基検出され、現時点では日本最古となる可能性が高いものである。縄文時代草創期では奥ノ仁田遺跡（西之表市）、鬼ヶ野遺跡（西之表市）、三角山遺跡（中種子町）などの調査で多くの隆帯文土器や竪穴状遺構などが検出され、南九州圏の縄文文化の先進性を示すこととなりこれらの遺跡の調査によって種子島の縄文時代草創期の遺跡が注目を浴びることとなった。その後の縄文時代早期・前期・後期の遺跡も多数所在し、その後の弥生時代から古墳時代にかけての遺跡も出土品の一部が国の重要文化財に指定された広田遺跡（南種子町）に代表される埋葬址などを含め島内各地で確認されているが、弥生・古墳時代の遺跡は縄文時代の遺跡数に比べると少なく、またこの時期の集落址等は島内でこれまで発見されていないため、未解明な点が多いのが現状である。



第2図 芦野遺跡と周辺遺跡図

第1表 芦野遺跡周辺遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	仮屋園	西之表市安城平山	縄文時代早期	平成10年農政分布調査
2	通利山	西之表市安城上之町	縄文時代	平成13年県道分布調査 平成15年試掘調査
3	鬼ヶ野A	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
4	鬼ヶ野B	西之表市安城上之町	縄文時代	平成12年確認調査
5	鬼ヶ野	西之表市安城上之町	縄文時代草創期	平成13年発掘調査
6	日守C	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
7	三本松	西之表市安城川脇	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査
8	日守B	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成6年確認調査
9	日守	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成7・8年発掘調査
10	長迫	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成13年県道分布調査 平成13年試掘調査
11	東前平	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成14・15年発掘調査
12	芦野	西之表市立山芦野	縄文時代早期	平成16年度発掘調査 本報告書
13	九郎三工門	西之表市立山芦野	縄文時代	平成3年農政分布調査
14	奥嵐	西之表市立山植松	縄文時代早期	平成5年発掘調査
15	奥ノ仁田	西之表市立山植松	縄文時代草創期 早期	平成5年発掘調査 出土品は県文化財に指定
16	尾呂ノ平	西之表市立山御牧	縄文時代	平成13年県道分布調査
17	長崎	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
18	中園A	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
19	中園B	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
20	下ノ平	西之表市立山	縄文時代	平成13年県道分布調査
21	鍬ノ刃	西之表市安城大野	縄文時代早期	平成17・18年発掘調査

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 調査の概要

芦野遺跡の範囲内で、道路工事で削平される部分のみが調査対象となった。確認調査の結果から、北側・南側に遺物包含層が確認されており、南側の調査対象地については表土及びアカホヤ火山灰層までを重機で除去した後、人力で掘り下げながら遺物・遺構の検出を行い、写真撮影・平板・レベル測量・遺構の実測作業を行った。北側の調査対象地は表土及びローム層までを重機で除去したのち、人力で掘り下げながら遺物・遺構の検出を行った。北側区は掘り下げ面が非常に硬く作業は困難であった。

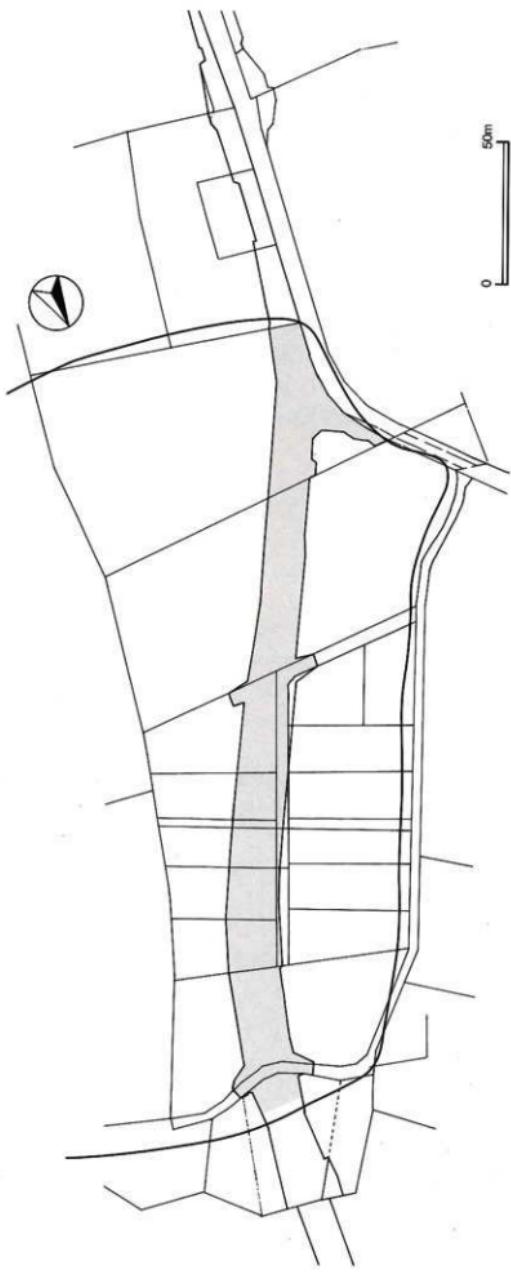
確認調査の結果を基に、南側区の調査の最下層をV層の暗褐色土としたが、一部下層確認のためVI層の黒茶褐色土まで掘り下げた箇所もある。北側区はAT火山灰層下位の層である、茶褐色ローム層とした。調査面積は南側1,200 m²・北側200 m²で計1,400 m²であった。

第2節 層位

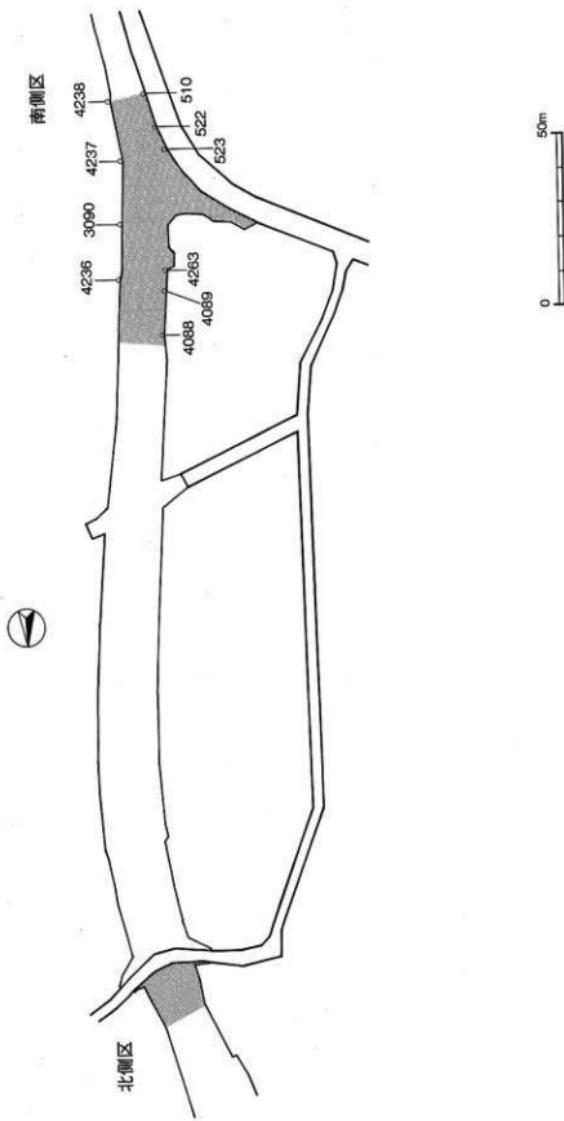
土層は場所によって、一部の層が欠落している部分があるが、基本的には下記のとおりである。

I 層 表土	
II 層 黒色土	
III 層 黄橙色火山灰層	アカホヤ火山灰層 約6,300年前の鬼界カルデラ噴出物
IV 層 ベージュ色ローム土	遺物包含層（縄文時代早期）
V 層 暗褐色土	場所によってはVI層の明茶褐色土と漸移している箇所も見られる。 一部下位に数cm単位のブロック状の暗黄色のバミスが混在する。サツマ火山灰と思われる。
VI 層 黒茶褐色土	場所によっては黒茶より乳白色が若干強い箇所もある。
VII 層 茶褐色ローム	
VIII 層 暗黄色ローム	
IX 層 黄色ローム	AT火山灰層（約24,000年前）1次・2次に分層できるところもある。
X 層 明茶褐色ローム	
XI 層 茶褐色ローム	

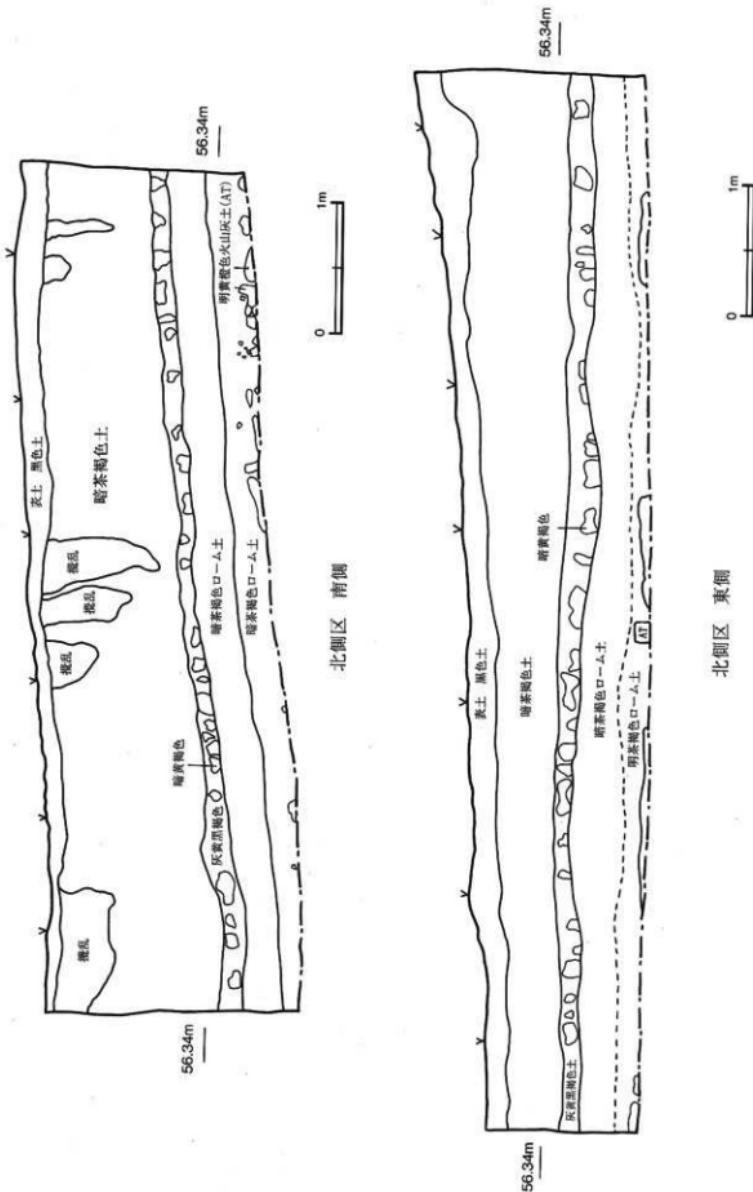
第3図 声野遺跡エリア及び工事対象地



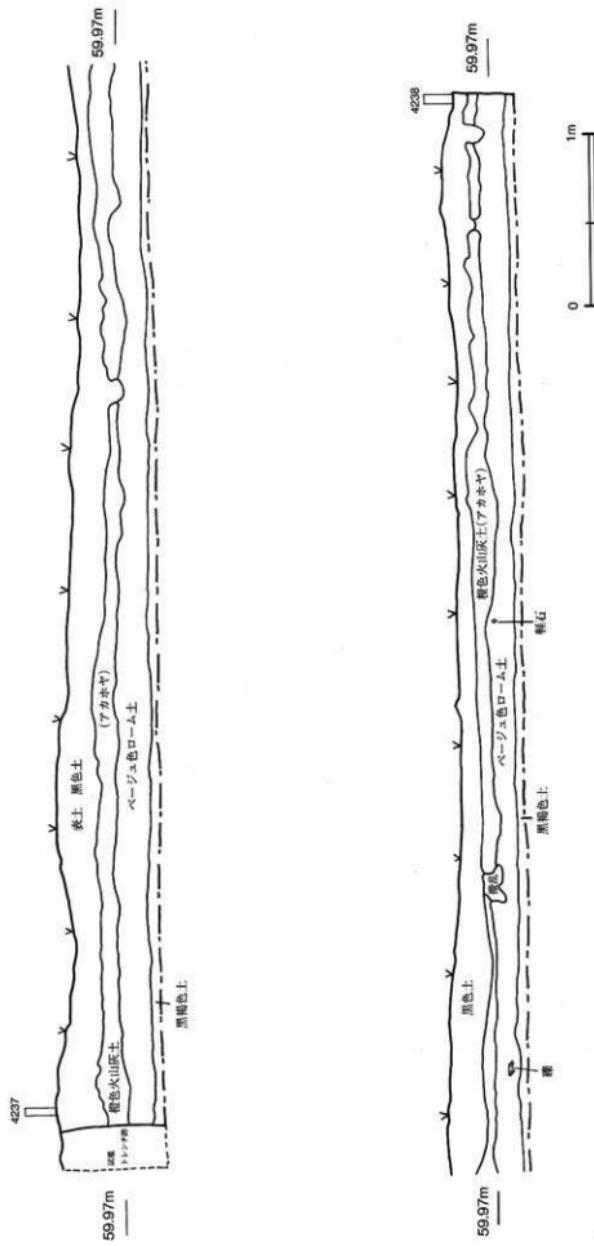
第4図 調査対象地



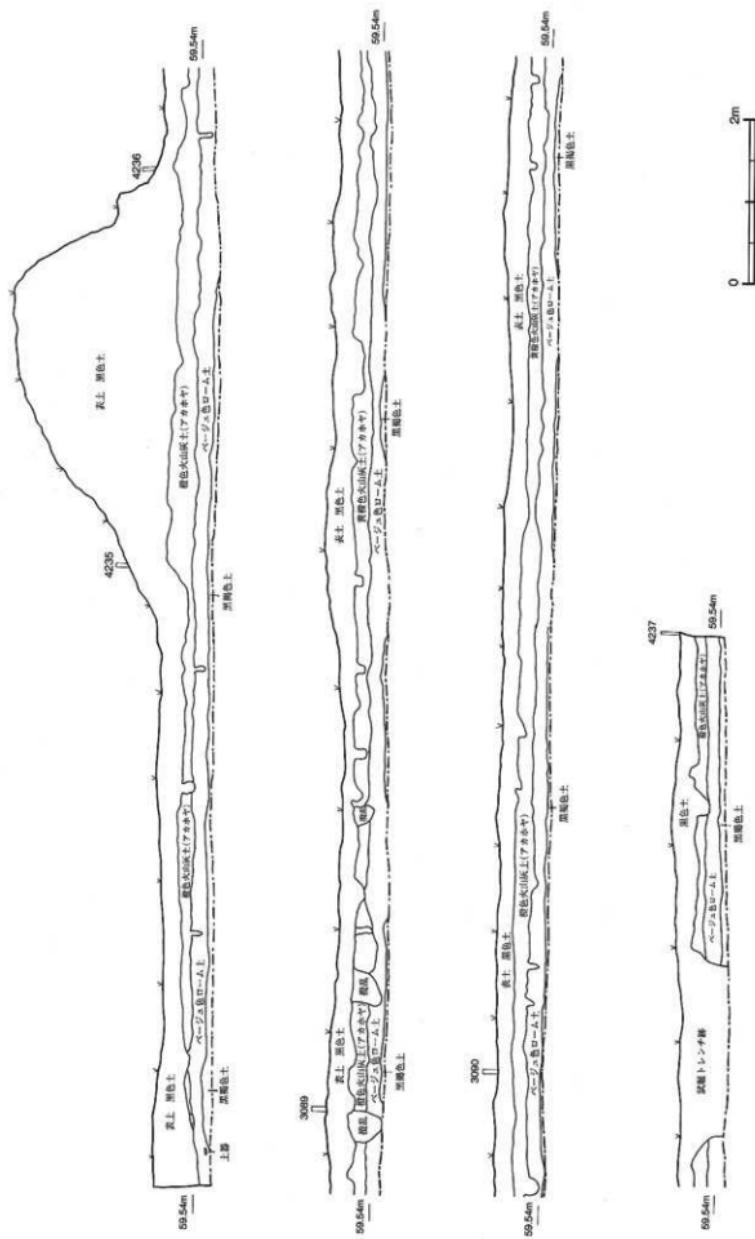
第5図 北側区、南・東側土層断面図



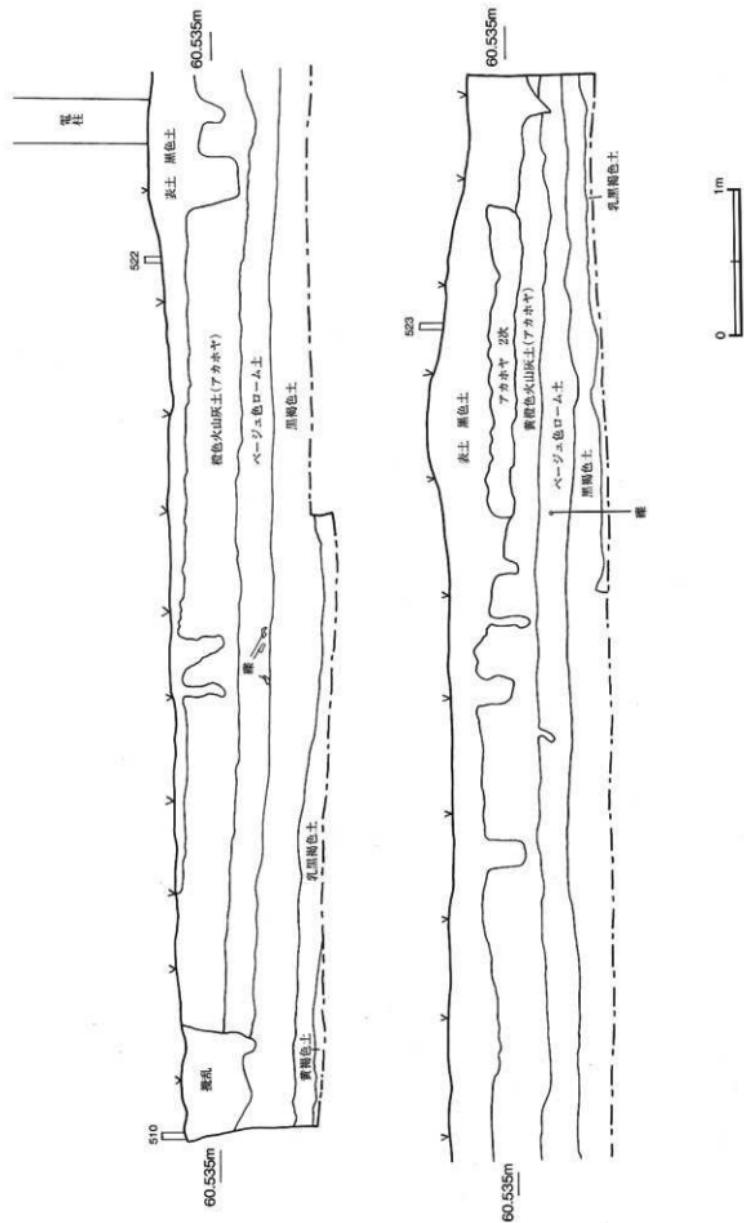
第6図 南側区 東側土壌断面図 (1)



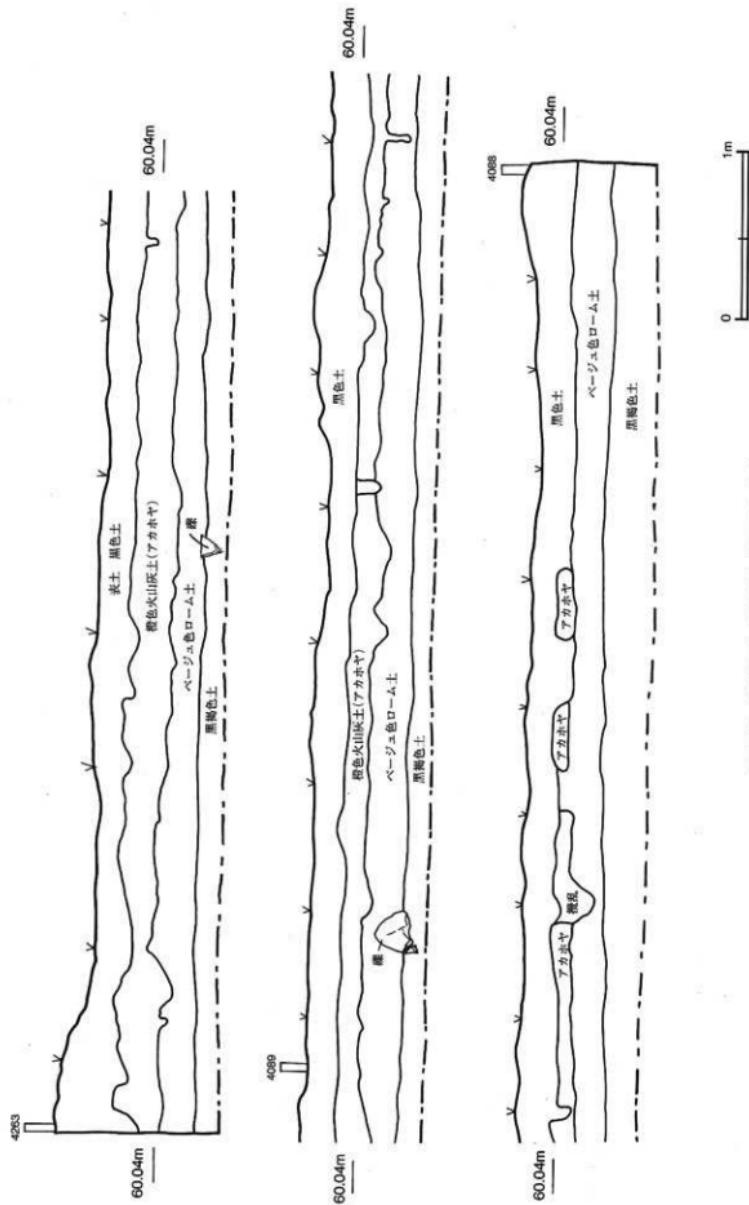
第7図 南側区 東側土層断面図 (2)



第8図 南側区 西側土層断面図(1)



第9図 南側区 西側土層断面図 (2)



第3節 遺構

調査地北側区より、AT火山灰層直上から礫が7点集まった状態で出土した。検出当初は礫群の可能性が高かったが、礫の状態、検出の状況などから礫の集積状遺構と判断した。南側区では配石6基、集石8基、土坑1基が検出された。検出面は全て第IV層で縄文時代早期のものである。

またこの南側区では遺物が集中して出土した箇所が6箇所あり、全て実測作業を行った。各遺構の検出状況及び遺構内出土遺物について述べる。

礫集積状遺構（第11図）

98cm × 54cm の範囲内に 10 ~ 15cm の大きさの7点の砂岩礫から構成されている。構成する礫のうち、1は台石・石皿として使用したと思われ、磨面等の使用痕がある。集積内の礫の接合を行つたが、接合できたものは1点もなかった。礫には熱を受け赤化したものや、熱を受けた痕跡が見られるものは1点も含まれていない。検出面には焼土、炭化物等は検出されず、掘り込みも確認されなかった。集積状遺構内の周辺部での石器類の出土や遺構などは確認されなかった。集積状遺構の検出層はAT直上の暗黄色ローム層であるため、土層から旧石器時代末期のものであり、当初は礫群ではないかと思われ調査を進めていったが、熱を受けた痕跡が礫・検出面に確認されないことや礫の検出状態などから集積状遺構とした。これらの礫は石器として使用するために集められたものとも考えられる。旧石器時代の遺構は種子島では中種子町立切遺跡・大津保畠遺跡、南種子町横峯遺跡で礫群・土坑・落し穴などが報告されているが、本市では初めてのものとなった。

配石（第15図～17図）

配石は南側区より6基検出された。いずれも第IV層面から検出されたものであり、時期区分では縄文時代早期に位置付けられるものである。

1号配石（第14図）

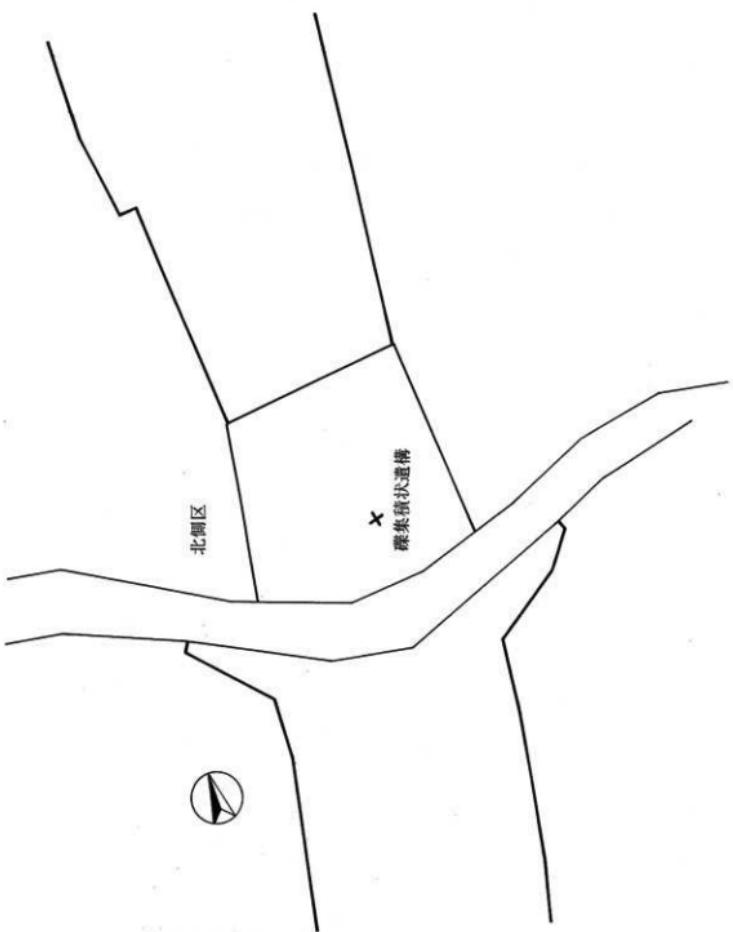
135cm × 119cm の範囲内に4点の礫が出土している。うち2点の礫は赤化し、熱を受けた痕跡が見られる。礫は全て砂岩である。検出面は第IV層である。礫を除去したのち下位に掘り込みを確認した。埋土は黒褐色土である。掘り込み内より土器小片が1点出土した。外面に貝殻条痕文を施しているものである。掘り込みの深さは検出面から約25cm 程である。周辺及び掘り込み内からは炭化物は検出されなかった。

2号配石（第14図）

218cm × 96cm の範囲内に7点の砂岩礫から構成されている。礫は10cm から 20cm ほどの大きさで、すべて砂岩である。検出状況は礫が散在した状態であった。礫のうち数点は炎熱を受け赤化しているものが見受けられた。内部及び周辺からは炭化物は検出されず、また掘り込みも確認されなかった。

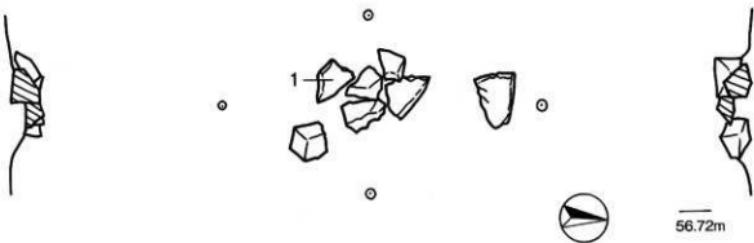
0 10m

第10図 碳集積状況構配図



— 56.72m —

56.72m



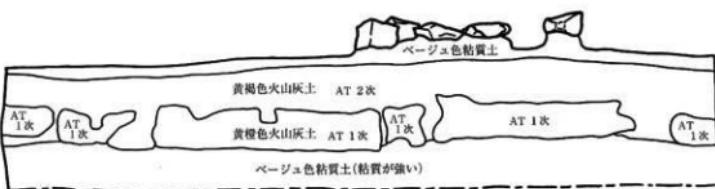
56.72m

0 50cm

礫集積状構造

55.965m

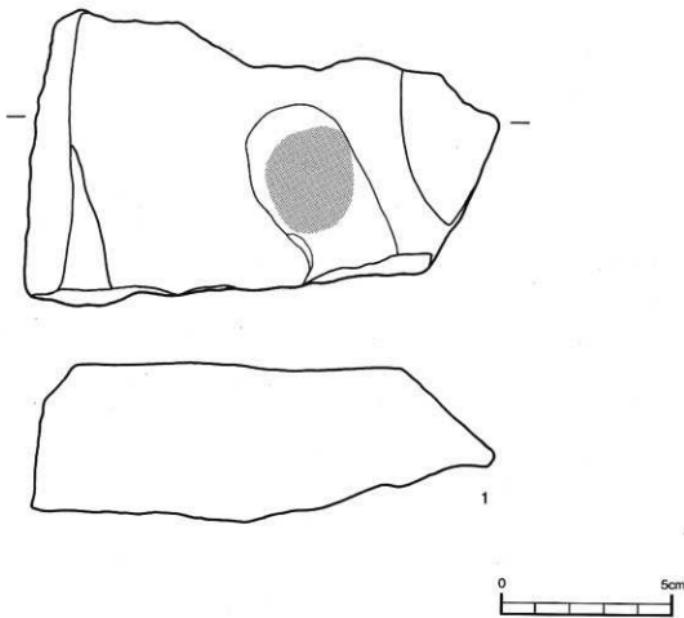
55.965m



集積状構造下位土層断面

0 50cm

第 11 図 砥集積状構造・土層断面

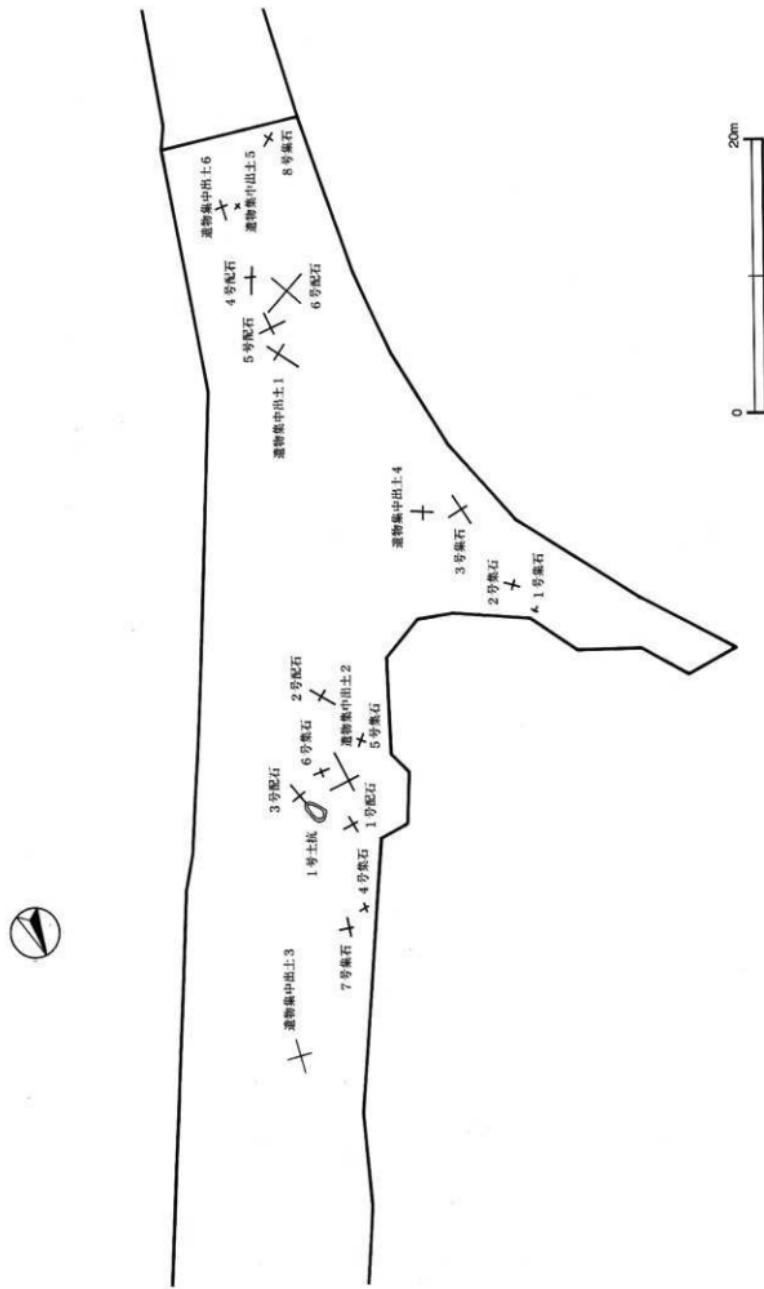


第12図 集積状遺構内遺物

第2表 碟集積状遺構内石器観察表

挿図	番号	器種	出土地	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上番号	備考
12	1	台石・石皿	集積状遺構内	砂岩	8.6	13.6	4.6	680	集積内2	

第13図 南側区遺構配置図



3号配石（第15図）

175cm × 126cmの範囲内に7点の砂岩礫から構成されている。礫は拳大から30cmを超えるものが使用され、全て砂岩である。土器小片も2点出土しており、3は貝殻条痕文、4は貝殻刺突文を外面に施すものである。半数の礫が炎熱を受け赤化し、熱破碎が見受けられるものもある。周辺からは炭化物は検出されず、掘り込みも確認されなかった。

4号配石（第15図）

198cm × 85cmの範囲内に8点の砂岩礫から構成されている。礫は5cmから20cmほどのものが使用されている。礫のうち3点は炎熱を受け赤化し、熱破碎が見受けられるものもある。周囲からは炭化物は検出されず、掘り込みも確認されなかったが、土器片2点が出土しており、いずれも貝殻条痕文を外面に施すものである。

5号配石（第16図）

174cm × 209cmの範囲内に8点の礫から構成されている。礫は散在した状態での検出であった。礫は手のひらから20cmほどの大きさのものが使用され、全て砂岩である。礫の一部は炎熱を受け赤化している。掘り込み面は確認されず、炭化物も検出されなかった。土器片が3点出土している。外面が無文または貝殻条痕文を施すものである。配石としたが、散在した感が強いものである。

6号配石（第17図）

278cm × 384cmの範囲内に拳大から20cmを超える大きめの礫40点から構成されている。礫は中心部にまとまりがあり、中心部の礫は全て赤化し、熱破碎が見られる。構成される礫は全て砂岩である。掘り込み面は確認されず、炭化物は検出されなかった。土器片が3点出土している。無文または貝殻条痕文を施すものである。

集石（第18図～21図、第23図）

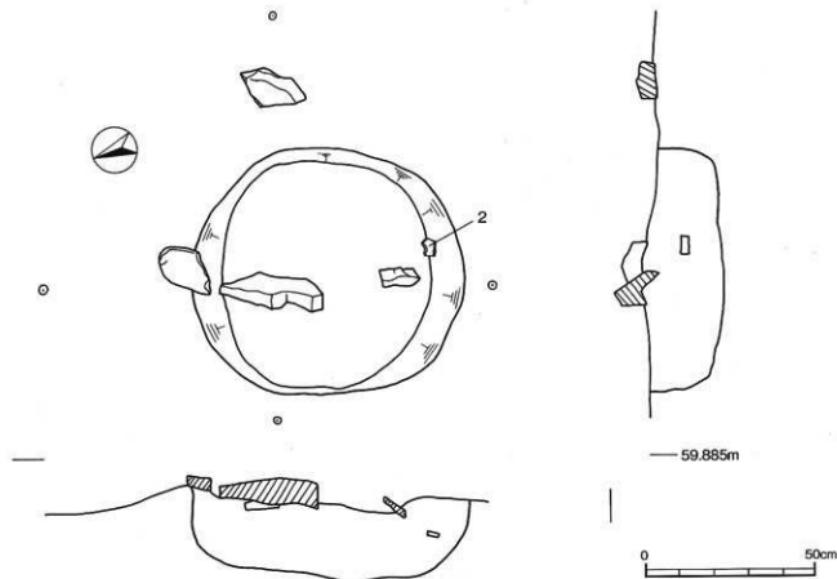
集石は第IV層面より8基検出された。構成される礫は熱を受け赤化したものや、破碎したものなどがあり、集石内部より炭化物が検出されたものもあった。時期区分では全て縄文時代早期に位置付けられるものである。

1号集石（第18図）

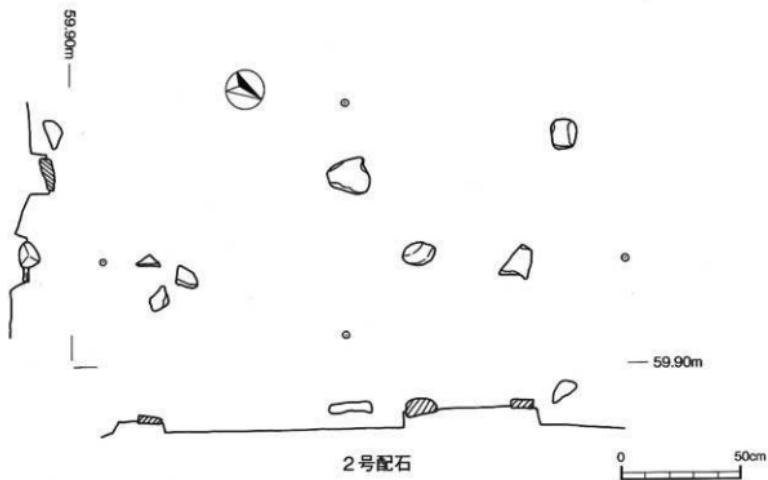
53cm × 58cmの範囲内に9点の礫から構成されている。検出面は第IV層である。礫は拳大から20cmほどの大きさであり、全て砂岩である。礫は炎熱を受けたための赤化が著しく、熱破碎が見られ、オレンジ色を呈しているものもある。下位に掘り込みではなく、内部、周辺から炭化物は検出されなかった。

2号集石（第18図）

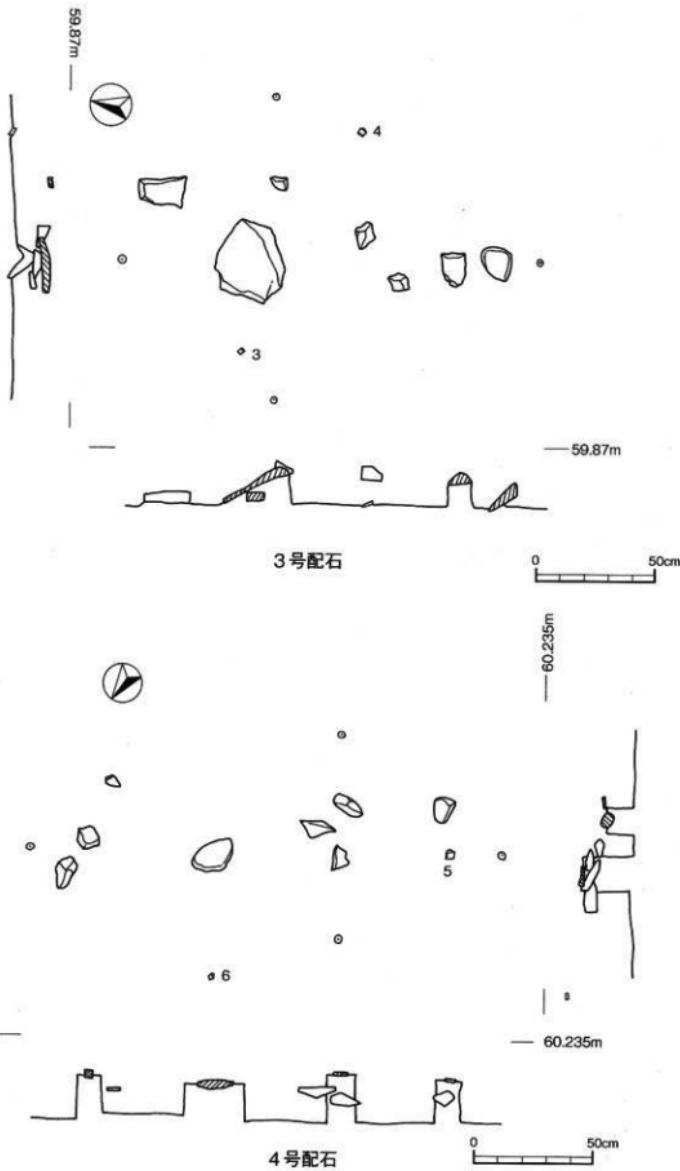
78cm × 121cmの範囲内に5点の礫から構成されている。北側壁面そばよりの検出である。礫は手のサイズのものが多く、全て砂岩である。3点の礫は炎熱を受けたための赤化が見られ、熱



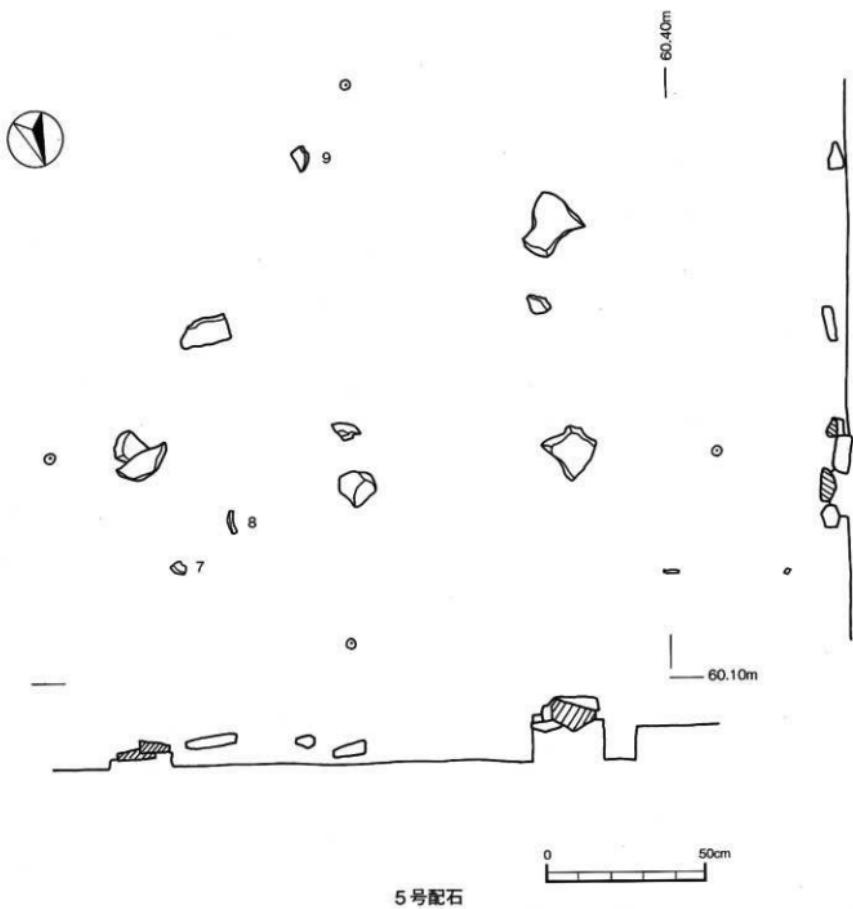
1号配石



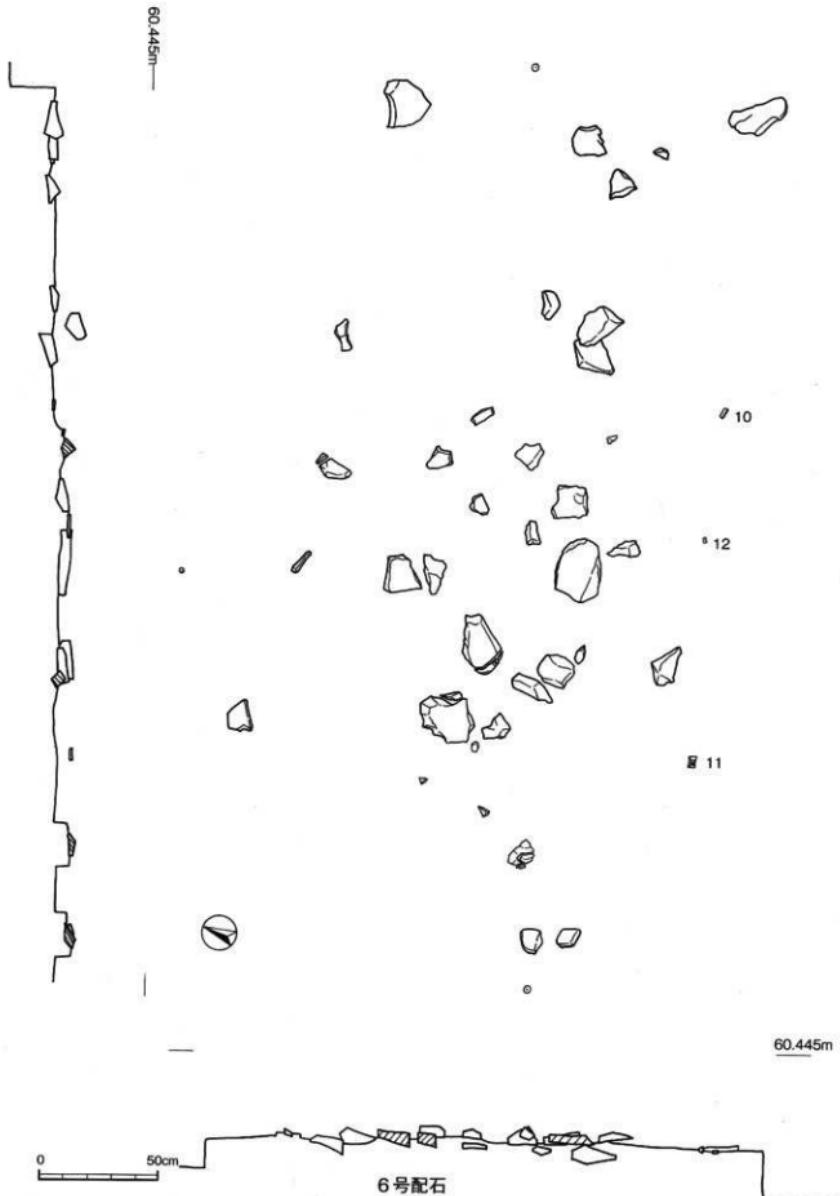
第14図 配石 (1)



第15図 配石 (2)



第16図 配石 (3)



第17図 配石 (4)

破碎も見られる。50は磨石・敲石類である。土器片も1点出土している。下位に掘り込み面は確認されなかったが、周辺からは炭化物が検出された。

3号集石（第19図）

151cm×249cmの範囲内に18点の礫から構成されている。礫は全て砂岩で、大きさは手のひら程度である。中心部の礫は同一個体のもので炎熱を受け赤化し、熱破碎したものである。下位に掘り込みは確認されなかったが、内部より炭化物が確認された。51は磨石・敲石類である。

4号集石（第20図）

82cm×80cmの範囲内に5点の礫から構成されている。礫の大きさは拳大から30cm程のもので、全て砂岩である。全ての礫は炎熱を受け、赤化し熱破碎が見受けられる。掘り込みは無く、炭化物も検出されなかった。外面に貝殻条痕文を施した土器片が1点出土している。

5号集石（第20図）

70cm×103cmの範囲内に5点の礫から構成されている。礫の大きさは拳大から25cmほどで、全て砂岩である。炎熱を受け赤化したり、熱破碎を受けている礫は見られない。散在した状態での検出であった。掘り込み面は確認できず、また炭化物も検出されなかった。土器片が1点出土している。

6号集石（第21図）

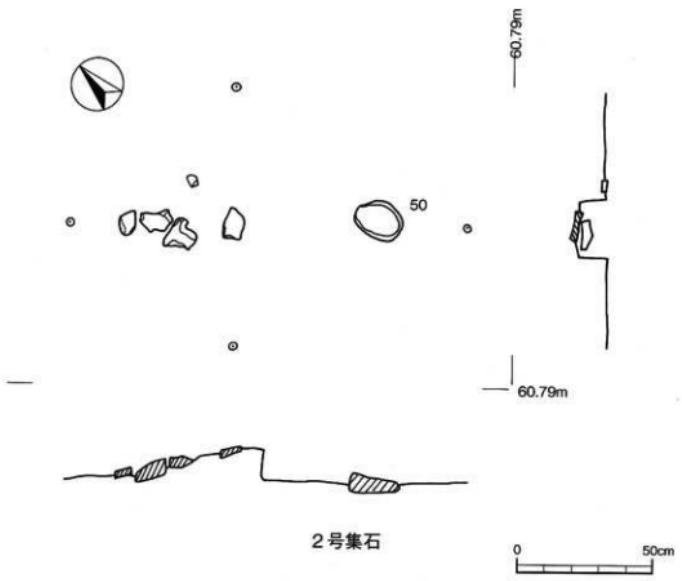
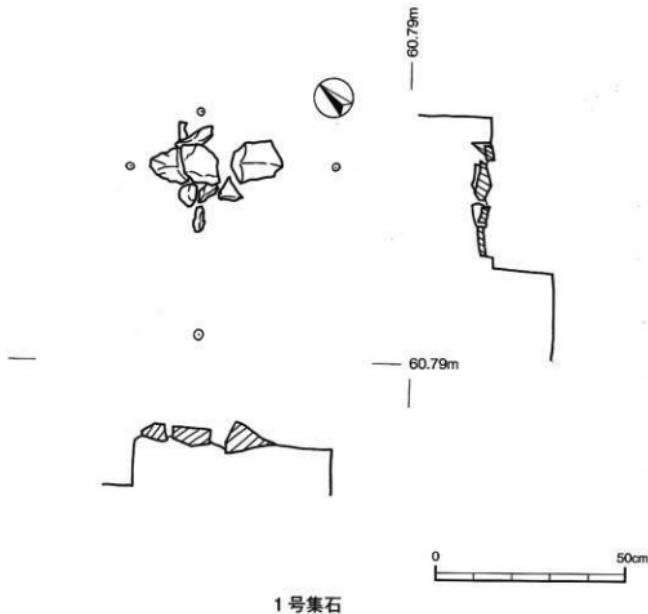
66cm×122cmの範囲内に6点の礫から構成されている。礫は拳大から手の平サイズのもので、石材は全て砂岩である。炎熱を受けたものや、熱破碎をしたものは見受けられない。14は土器片である。この14を挟んで上・下の礫は同一個体の礫で破碎したものである。下位に掘り込み面は確認できず、炭化物は検出されなかった。

7号集石（第21図）

115cm×150cmの範囲内に11点の礫から構成されている。礫の大きさは拳大から10cmを超える程度で、全て砂岩である。中心部の礫は赤化し炎熱を受けた痕跡が見受けられる。掘り込み、炭化物とともに確認はされなかった。

8号集石（第23図）

南側壁側で60cm×90cmの範囲内に8点の礫から構成されている。礫の大きさは拳大から手のひら位であり、石材は砂岩である。赤化し炎熱を受けた痕跡のある礫や熱破碎が見られるものなどは1点も無い。下位に掘り込みは確認されず、炭化物は検出されなかった。中心部の礫は数点が同一個体の礫で、割れたものである。



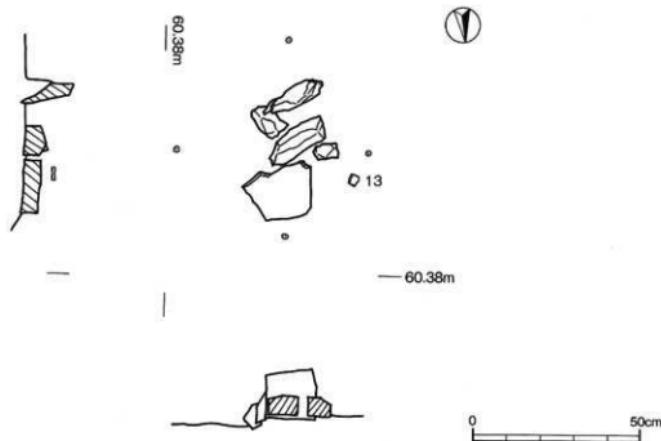
第18図 集石(1)

第19圖 集石 (2)

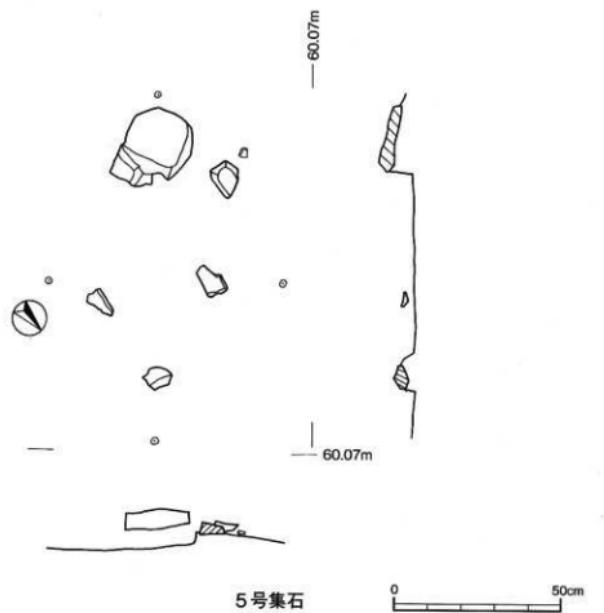
— 60.83m
50cm

3号集石

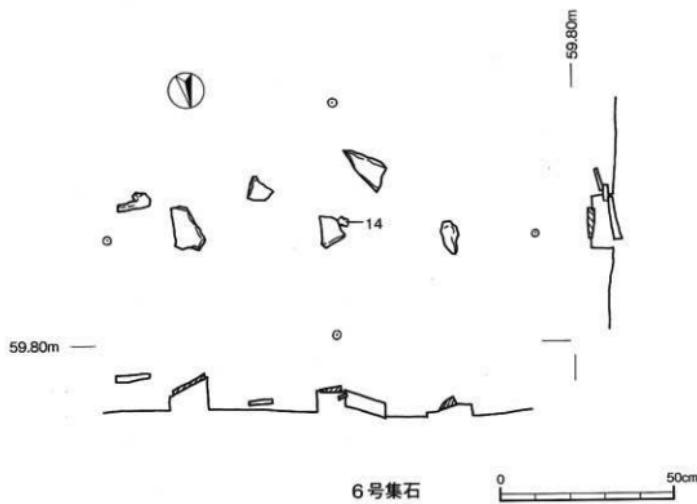




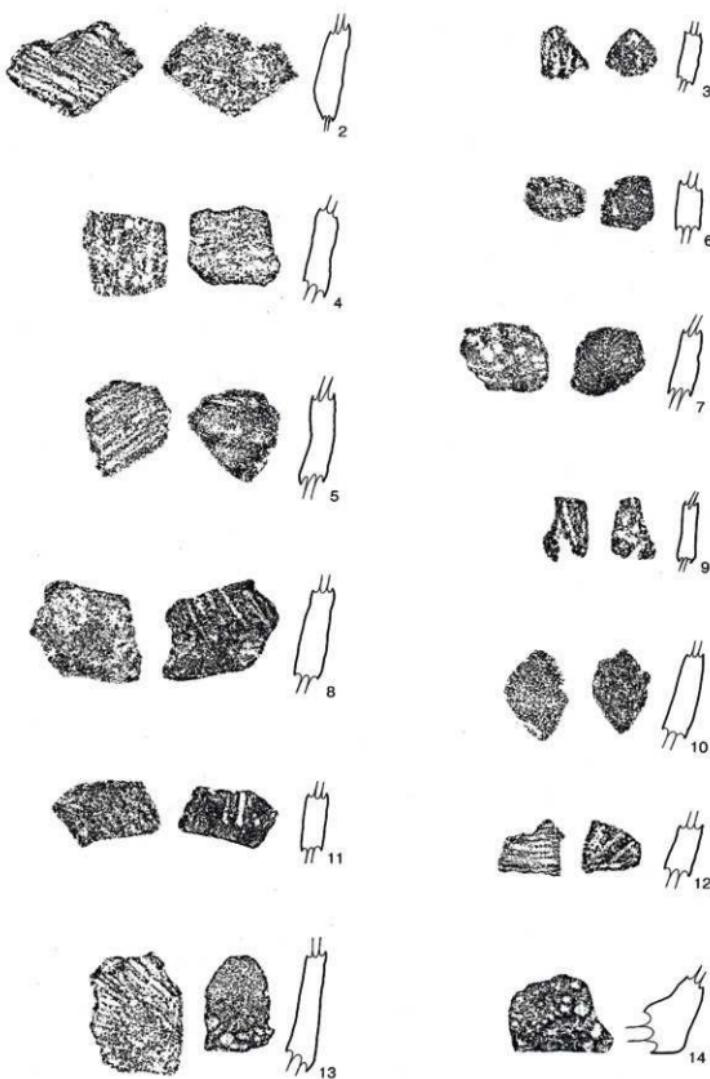
4号集石



第20図 集石 (3)



第21図 集石(4)



0 5cm

第22図 遺構内出土遺物 (1)

土坑（第23図）

南側区で第IV層面より、土坑が1基検出された。時期区分では縄文時代早期に位置付けられるものである。

1号土坑（第23図）

大きさは177cm×95cmで、平面形はほぼ梢円形に近いものである。検出時の埋土はやや薄い黒褐色土であり、単層である。深さは検出面から19cmであった。土坑内からは遺物や炭化物などは確認されなかった。3号配石に隣接する形での検出であった。

遺物集中出土地（第24図、25図、27図、29図、31図）

調査地南側区に遺物が集中して出土した箇所が6箇所あり、出土状況ごとに実測を行った。これらは掘り込みなどの構造は確認できなかった。集中出土地内には土器・石器・礫などが出土しており、出土土器の中には接合を行い、器形が復元できたものもあった。集中出土地内の土器は、I類・I b類・II類・III類・IV類・V類・VI類とあり、出土土器から時間差があることが伺われる。

集中出土1（第24図）

107cm×215cmの範囲内に同一個体と思われる土器片が約14点（I b類に相当）、礫が2点出土している。礫は散在した状態での出土であった。下位に掘込みは確認されなかった。また周辺からは炭化物は検出されなかった。

集中出土2（第25図）

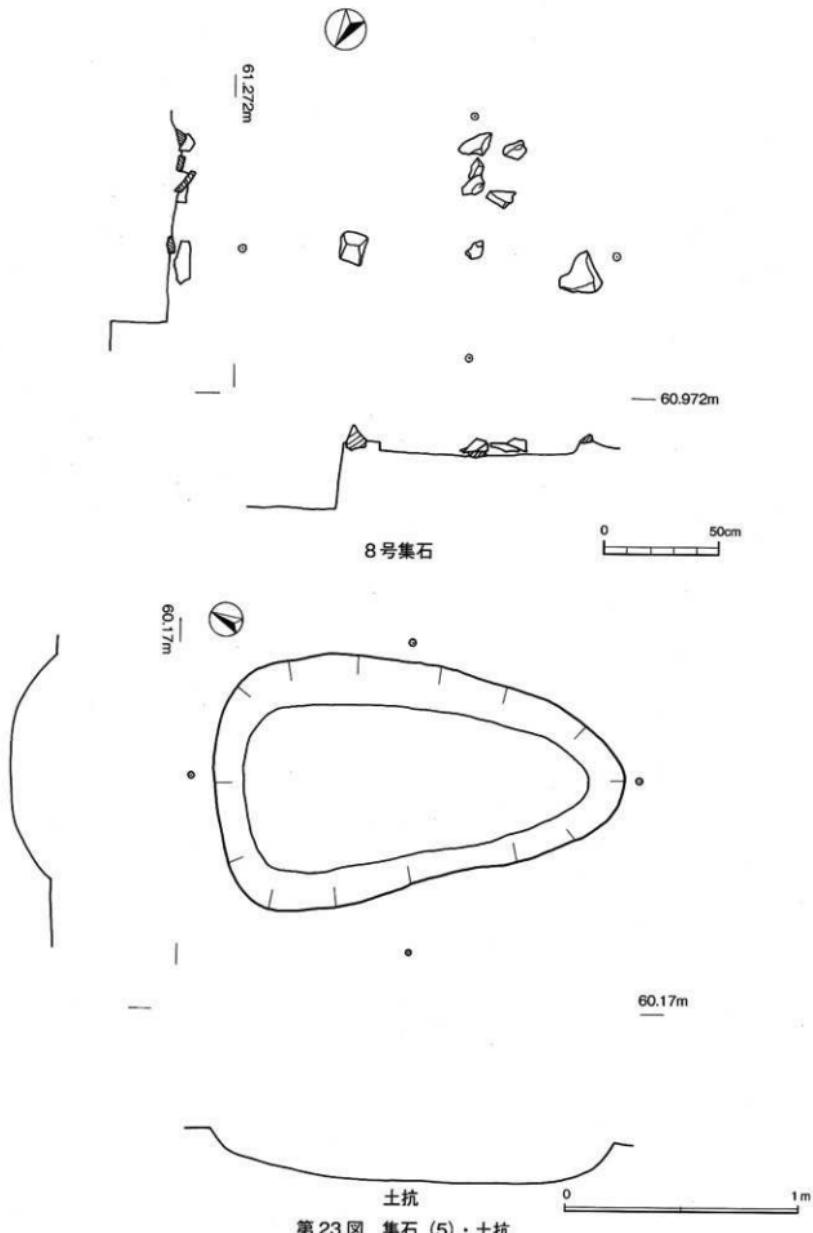
230cm×130cmの範囲内に15点の土器片と、9点の礫が出土した。29は底部である、底面に貝殻条痕文が施され、梢円形を呈している。出土土器は貝殻条痕文を外面に施すもので、I類に相当するものであり、同一個体と思われる。下位に掘り込みは無く、炭化物は検出されなかった。

集中出土3（第27図）

200cm×320cmの広い範囲内に22点の土器片と、2点の礫が出土した。34は底部片である。外面に貝殻条痕文がみられる。出土土器は僅かながら、貝殻条痕文・押し引文が見受けられ、II類に相当するものである。礫のうち52は磨石である。下位に掘り込みは確認されず、炭化物は検出されなかった。

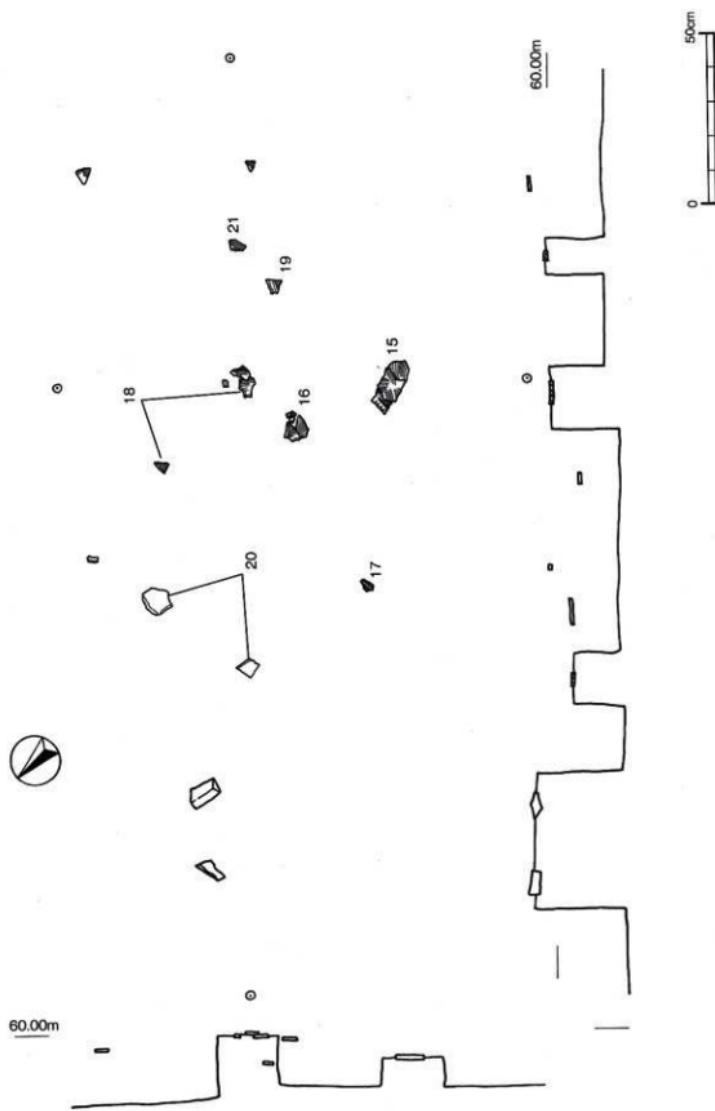
集中出土4（第29図）

110cm×140cmの範囲内に13点の土器片と、5点の礫の出土である。53は最大長16cmを超える大きめの磨石である。土器片は全て同一個体で、棒状工具・刷毛状工具での施文が外面に見られ、IV類土器に該当する。下位に掘り込みは確認されず、炭化物は検出されなかった。

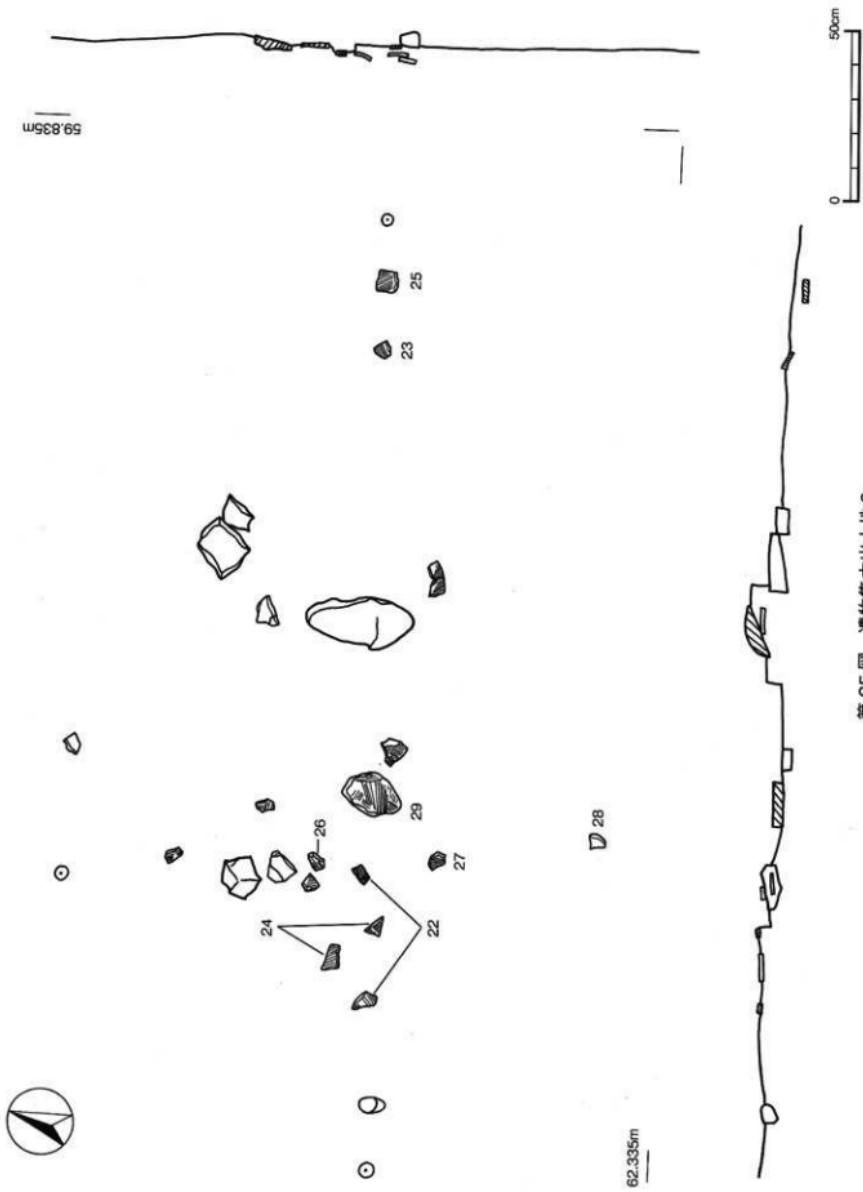


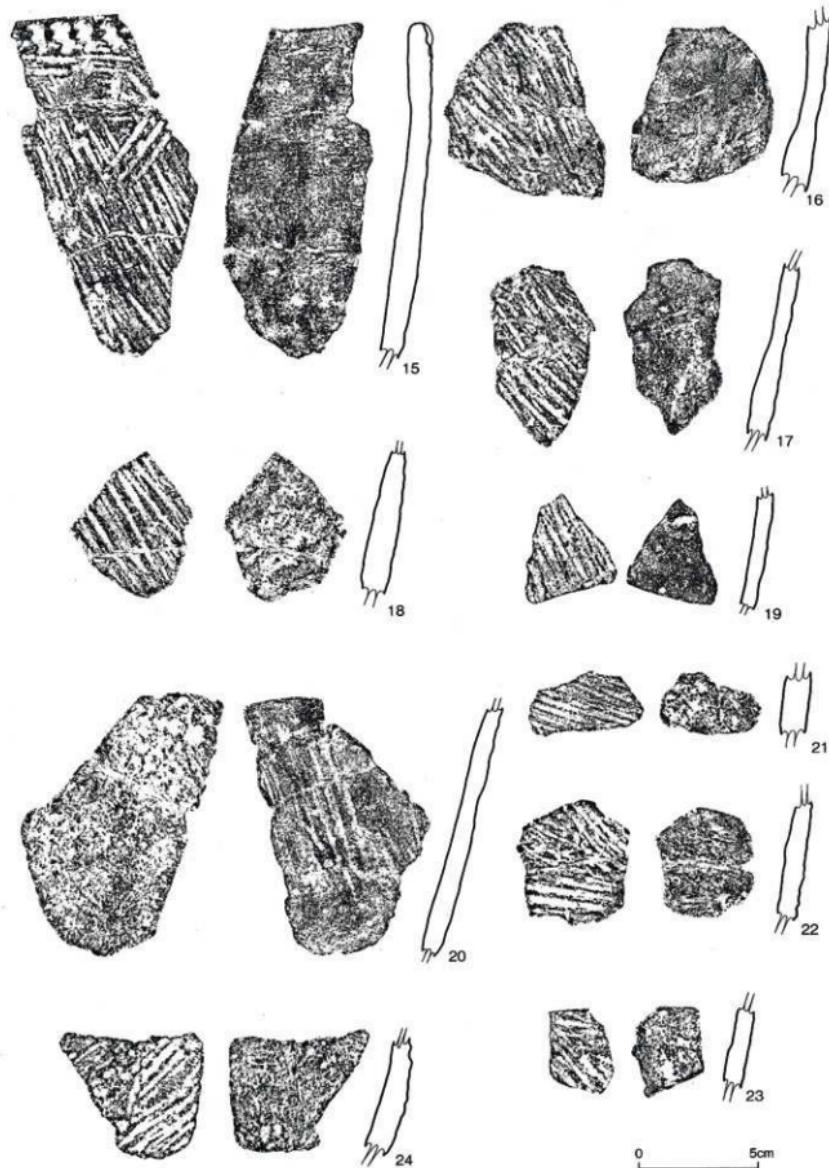
第23図 集石(5)・土抗

第24図 遺物集中出土地1



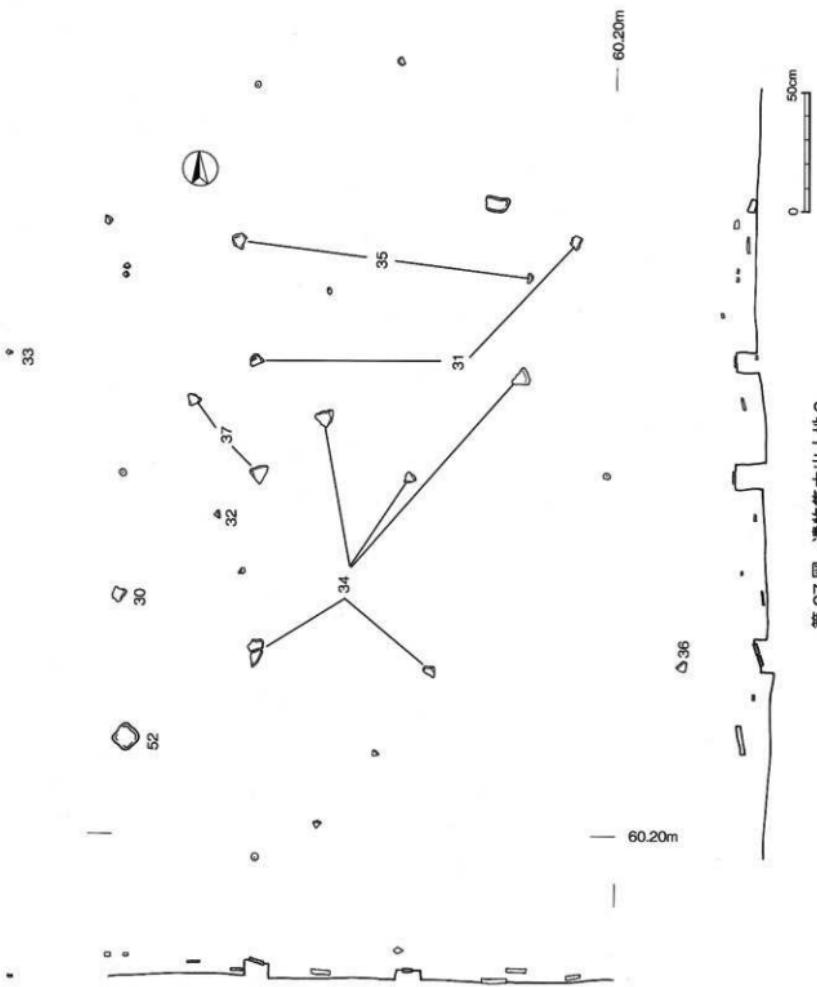
第25図 遺物集中出土地2

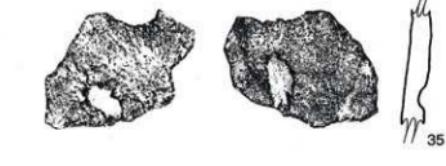
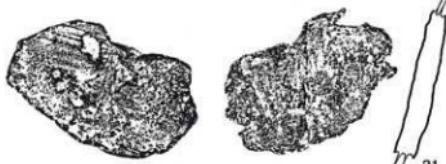
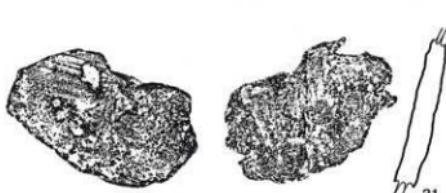
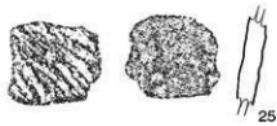




第26図 集中地出土遺物 (1)

第27圖 遺物集中出土地3



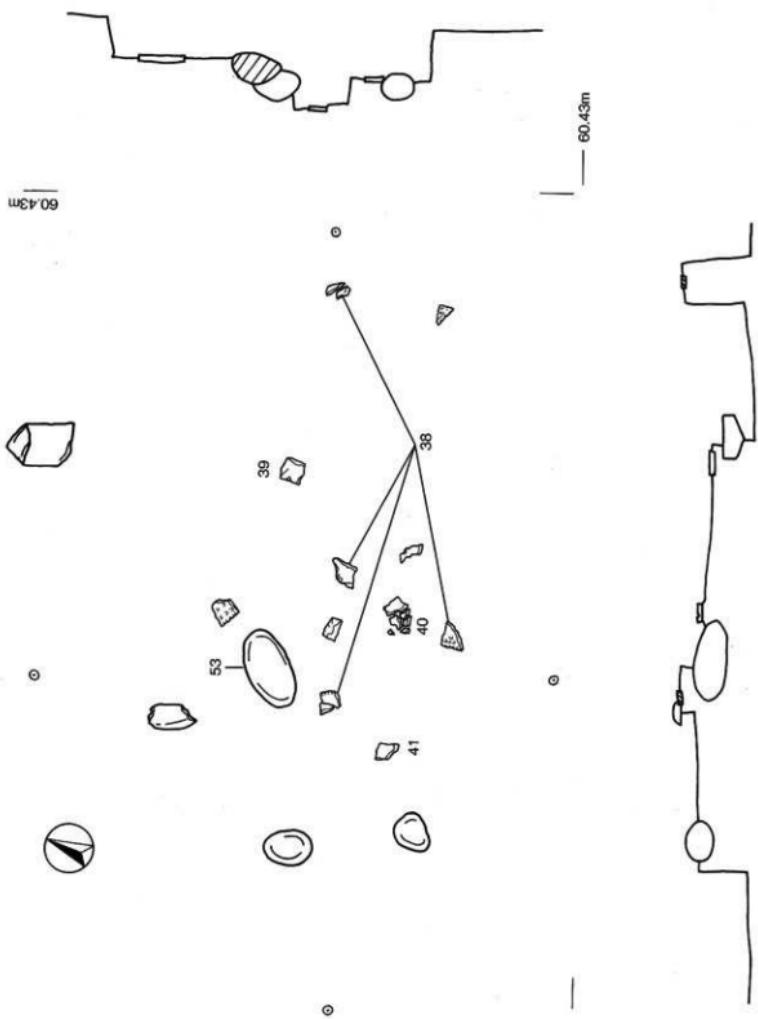


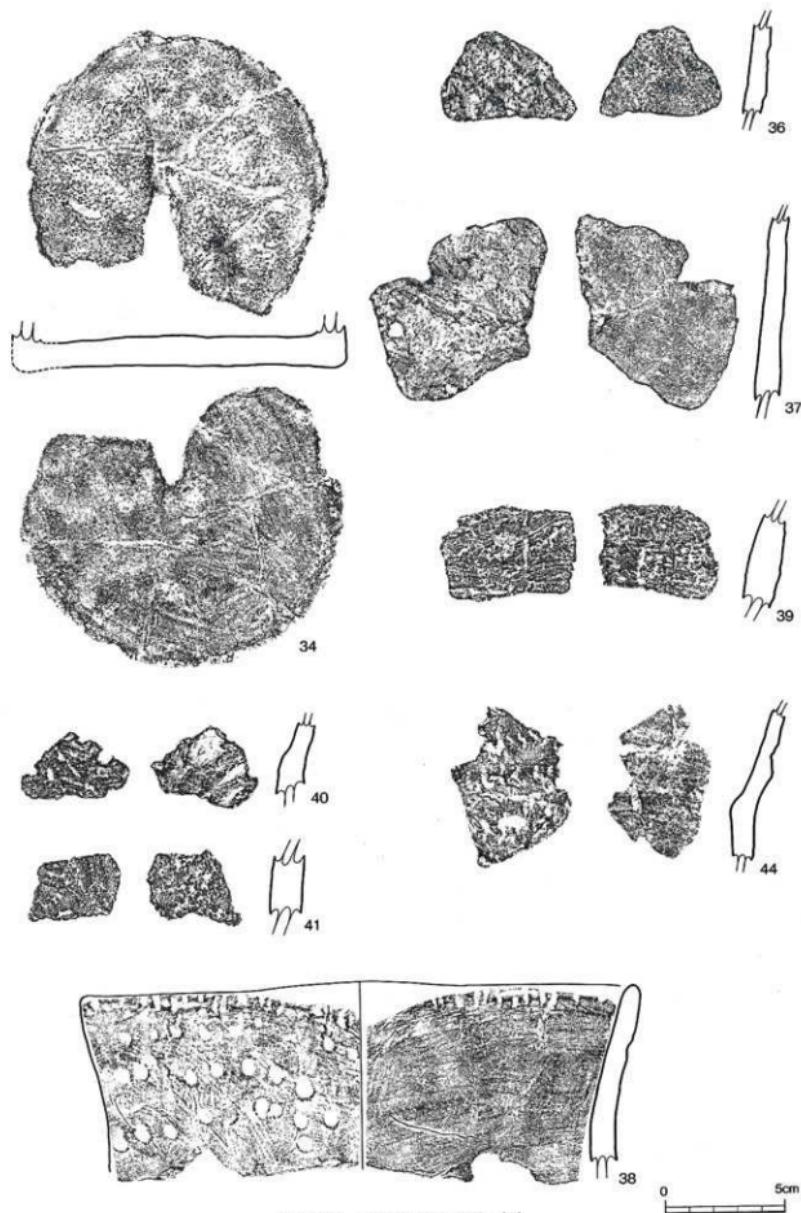
0 5cm

第28図 集中地出土遺物(2)

50cm

第29圖 遺物集中出土地 4





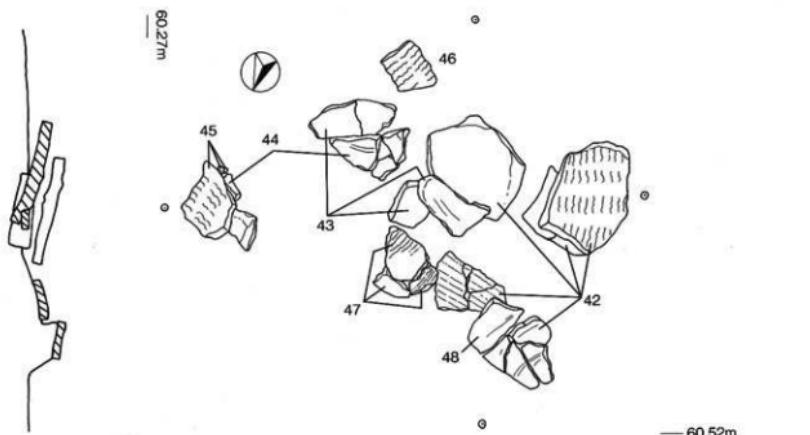
第30図 集中地出土遺物 (3)

集中出土5（第31図）

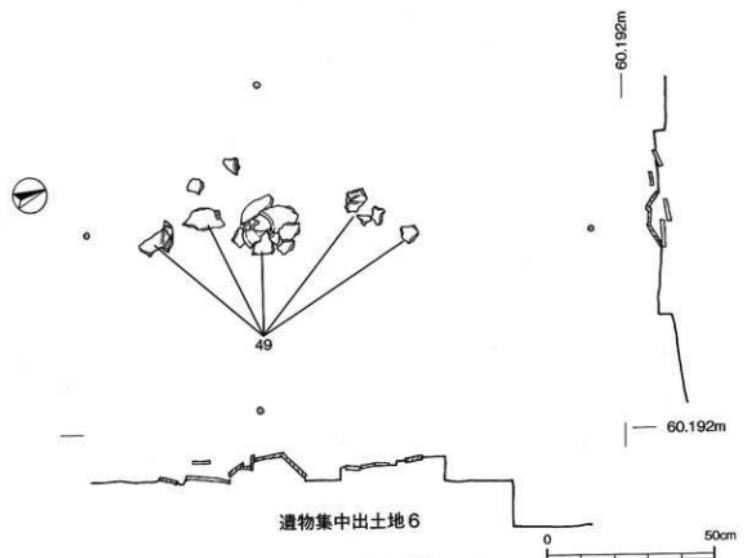
同一個体の土器片で、口縁部・底部を欠く。出土範囲は30cm×40cmの範囲である。貝殻刺突文、貝殻条痕文を外面に施すもので、器形は口縁部がラッパ状に外反していくものと思われる。出土状況は潰れた感より、破碎の方が強い印象を受けた。V類土器に相当する。下位に掘り込みは確認されなかったが、内部から炭化物が検出され、年代測定を行っている。

集中出土6（第31図）

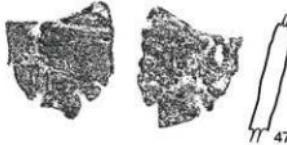
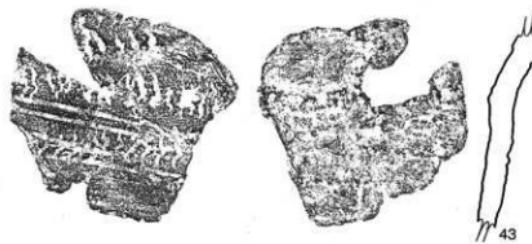
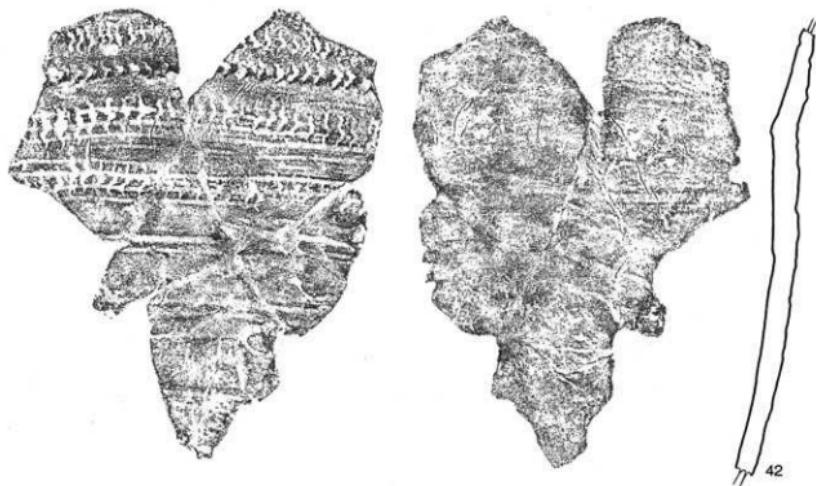
49は底面を上にし、潰れた状態での出土であった。ちょうど、お椀を逆さまにした様な状態である。出土範囲は100cm×40cmの範囲のなかで、一列に出土しているようである。接合の結果、ほぼ復元でき、器形は口縁部があまり開かず、直行に近い。外面には貝殻条痕文が施されている。下位に掘り込みは見られなかったが、出土地内から炭化物が検出され、年代測定を行っている。



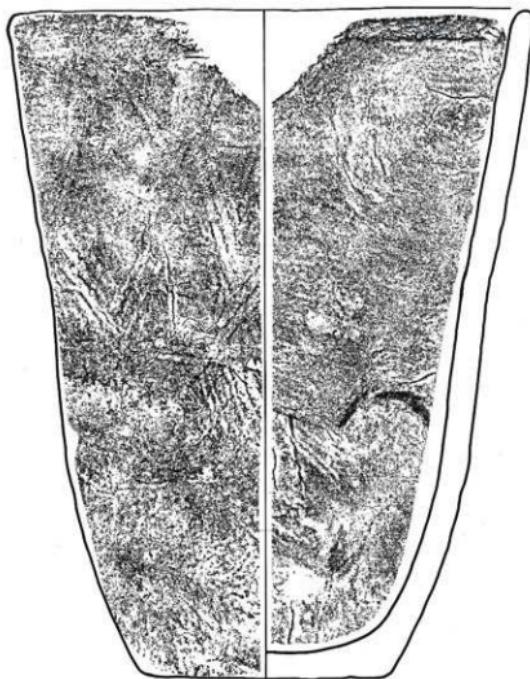
遺物集中出土地 5



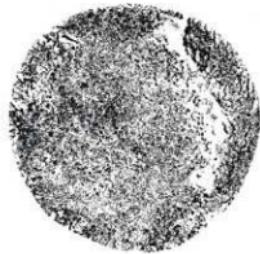
第 31 図 遺物集中出土地 5・6



第32図 集中地出土遺物 (4)



49



第33図 集中地出土遺物（5）

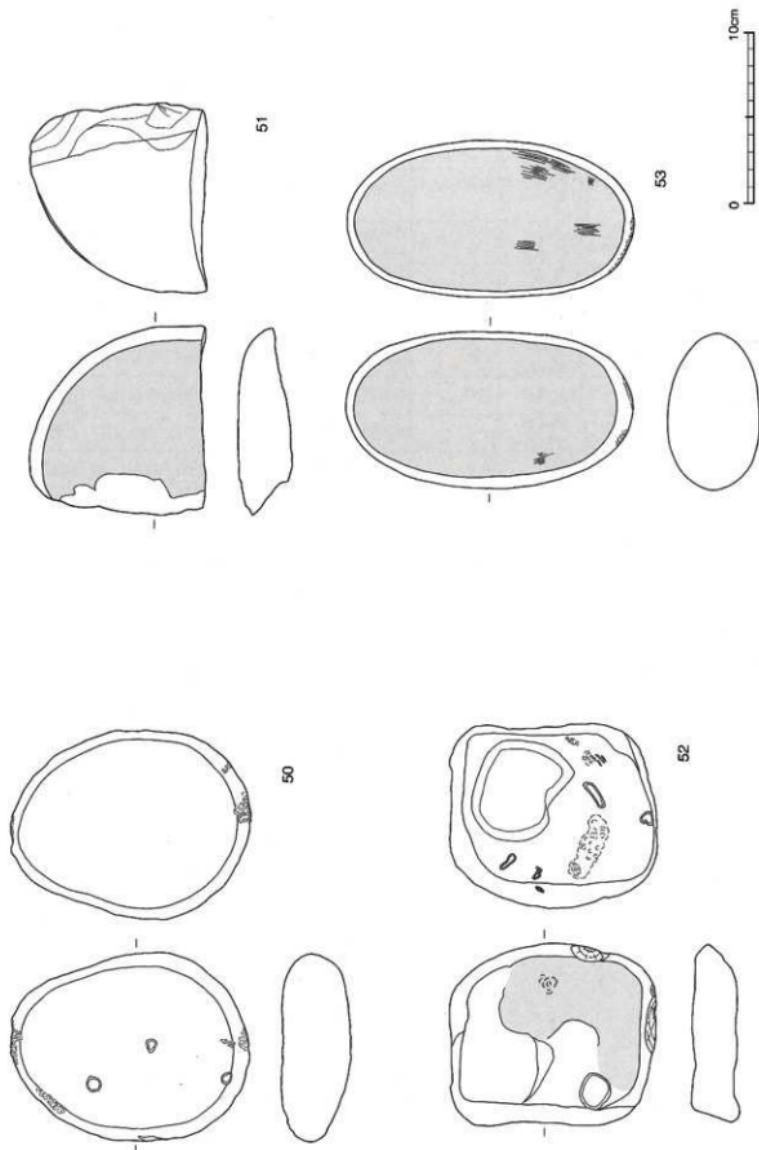
第3表 遺構・集中出土地内土器観察表(1)

埠岡	番号	器種	部位	分類	施文・調整		色調		胎土	焼成	取上番号
					外 面	内 面	外 面	内 面			
22	2	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	茶褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	1号配石・1
	3	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	3号配石・487
	4	深鉢	胴部	III	貝殻刺突	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	3号配石・488
	5	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	赤茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	4号配石・660
	6	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	4号配石・663
	7	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	5号配石・720
	8	深鉢	胴部	■	ナデ	ナデケズリ	赤茶褐色	暗茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	5号配石・721
	9	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	暗黄茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	5号配石・724
	10	深鉢	胴部	■	ナデ	ナデ	暗黄茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	6号配石・1
	11	深鉢	胴部	■	ナデ	ナデ	赤茶褐色	暗茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	6号配石・2
	12	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	6号配石・11
	13	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	明黄褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	4号集石・342
	14	深鉢	底部	III	貝殻刺突	ナデ	赤茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	6号集石・448
26	15	深鉢	口縁部	I b	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集1・712
	16	深鉢	胴部	I b	貝殻条痕	ナデ	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集1・711
	17	深鉢	胴部	I b	貝殻条痕	ナデ	黒茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集1 710-717
	18	深鉢	胴部	I b	貝殻条痕	ナデ	暗茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集1・710
	19	深鉢	胴部	I b	貝殻条痕	ナデ	黒茶褐色	暗茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集1・709
	20	深鉢	胴部	I b	貝殻条痕	ナデケズリ	赤褐色	黒茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	遺集1 715-716
	21	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集1・708
	22	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	黒褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集2 324-315
	23	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	暗茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	遺集2・328
	24	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	暗茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	遺集2 316-317
	25	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	黒茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集2・339
	26	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集2・333
	27	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	茶褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集2・325
28	28	深鉢	胴部	I	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	茶褐色	石英・長石・砂粒 雲母	良好	遺集2・326
	29	深鉢	底部	I	貝殻条痕	指ナデ	茶褐色	赤茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	遺集2・323
	30	深鉢	胴部	II	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集3・554
	31	深鉢	胴部	II	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集3 564-561
	32	深鉢	胴部	II	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	黑色	石英・長石・砂粒	良好	遺集3・555
	33	深鉢	胴部	II	貝殻条痕	ナデ	灰黄茶褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	遺集3・576
	30	34	深鉢	底部	II	ナデ	ナデ	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好
28	35	深鉢	胴部	II	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	黑褐色	石英・長石・砂粒 隕	良好	遺集3 565- 560

第4表 遺構・集中出土地内土器觀察表(2)

挿図	番号	器種	部位	分類	施文・調整		色 調		胎 土	焼成	取上番号
					外 面	内 面	外 面	内 面			
30	36	深鉢	胴部	II	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	黒褐色	石英・長石・砂粒 繖	良好	遺集3 573
	37	深鉢	胴部	II	貝殻条痕	ナデ ミガキ	灰茶褐色	黒色	石英・長石・砂粒 繖	良好	遺集3 566・ 556
30	38	深鉢	口縁部	IV	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	灰黄茶褐色	灰黄茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集4 63・ 64・142 144・ 149・139・181・ 83・138
	39	深鉢	胴部	IV	貝殻条痕	ナデ	灰茶褐色	灰褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集4・141
30	40	深鉢	胴部	IV	貝殻条痕	ナデ	灰褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集4・143
	41	深鉢	胴部	IV	貝殻条痕	ナデ	灰黑褐色	灰茶褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集4・150
32	42	深鉢	胴部	V	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	明黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5 786・ 787・788・790・ 791・805・809
	43	深鉢	胴部	V	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	灰黄褐色	灰白褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5 780・789・784
30	44	深鉢	胴部	V	貝殻刺突	ナデ	暗灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5 778・779・780
32	45	深鉢	胴部	V	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	灰黄褐色	灰白褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5・776
	46	深鉢	胴部	V	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5・783
32	47	深鉢	胴部	V	貝殻条痕	ナデ	灰黃褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5・785
	48	深鉢	胴部	V	貝殻条痕	ナデ	灰黃褐色	灰黑褐色	石英・長石・砂粒	良好	遺集5・788
33	49	深鉢	口縁部 胴部 底部	VI	貝殻条痕	ケズリ	灰黄茶褐色	灰黑茶褐色	石英・長石・砂粒 繖	良好	遺集6 812・619・620・ 775・816・815・ 773・810・811

第34圖 集中地出土遺物(6)



第5表 遺構・集中出土地内石器観察表

掲図	番号	器種	出土遺構	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	取上番号	備考
34	50	磨石・敲石	2号集石	砂岩	14	11	4	798	171	
	51	磨石・敲石	3号集石	砂岩	10.3	11	3.2	543	169	
	52	磨石・敲石	遺物集中3	砂岩	12.1	10.6	2.8	649	568	
	53	磨石・敲石	遺物集中4	砂岩	16.8	9.2	5.4	1200	147	